

目 次

			(ページ)
2020年度笹川科学研究助成	総 評	3
重点テーマ：「海に関する研究」	総 評	7
人文・社会系	総 評	11
	助成対象者	15
数物・工学系	総 評	17
	助成対象者	21
化学系	総 評	23
	助成対象者	25
生物系	総 評	27
	助成対象者	31
複合系	総 評	39
	助成対象者	43
実践系	総 評	47
	助成対象者	51
2019年度笹川科学研究助成	奨励賞受賞者	53
応 募 ・ 採 択 状 況		55

* 本リストは日本科学協会のホームページに掲載いたします。

2020 年度笹川科学研究助成総評

笹川科学研究助成事業委員会委員長

研究分野や立場的に恵まれない若手研究者の支援を目指す笹川科学研究助成事業は、今回で 33 回目を迎えました。今年度の申請は 1,101 件で、研究費の申請総額は 9 億 8,043 万円に上りました。申請は 2017 年度までは申請書類を直接事務局に送っていただくいわゆる紙ベースでしたが、2018 年度から電子申請に移行しました。厳正な審査を経て学術研究部門と実践研究部門を合わせて 323 件（採択率 29.3%）が採択されました。学術研究部門の採択者 308 件の 74.4%は大学院生で、残りは 35 歳以下でほとんどが非常勤または任期付き雇用研究者です。学術研究部門では、女性研究者の割合が 35.7%、留学生及び外国籍研究者の割合は 9.4%でした。こうした傾向は、このところあまり変わっていません。

笹川科学研究助成を始めた当時、大学院生や研究生の身分では助成団体への研究費申請ができませんでしたが、今では文部科学省の科学研究費（学術振興会が所掌）に大学院生を対象とする申請枠ができ、また、民間の一部でも大学院生対象の研究支援事業が進められようになりました。本事業がこうした社会の動きのきっかけになっているとすれば、大変嬉しい限りです。今年度までで、笹川科学研究助成の助成総数は 9,937 件になりました。助成を受けた OB・OG は国内において現役で活躍しているすべての年齢層におられ、大学や研究所の研究者のおよそ 10 人に 1 人が OB・OG といっても過言ではありません。33 年間の助成研究費は、総額が約 59 億円にのぼります。これはひとえに日本財団のご支援によるものです。

1997 年には、海洋・船舶科学分野の支援強化を目指して学術研究部門の中に海洋・船舶科学系を独立して新設し、2018 年度まで 22 年間募集してきました。しかし、分野的な偏りの可能性が感じられ、広範囲な海の研究分野を支援するため、2019 年度に海洋・船舶科学系を廃止し、代わりに学術研究部門のすべての系に「海に関する研究」のチェック欄を設けて募集したところ、従来の申請数の 2 倍以上の「海に関する研究」に申請があり、研究分野も大きく拡大しました。2020 年度も引き続いて学術研究部門の全分野を対象とした「海に関する研究」を募集しました。

学生・契約研究者など、現行制度では研究助成の受けがたい身分の若手研究者の掘り起こしはかなり浸透してきました。しかし、採択課題を見ると若手研究者に期待される萌芽性・新規性・独創性のある研究がまだ十分に発掘できていない感があります。ただ、昨今、指摘されるようになった「日本全体としての活力低下」があるとすれば、萌芽性・新規性・

独創性のある研究自体の全国的な減少が懸念されます。加えて、学術研究部門の申請の48.6%が生物系で、複合系、数物・工学系、化学系の申請にも生物課題が含まれることを考えると、全体の研究申請に占める生物分野の割合は極めて高く、年々この傾向が強くなっています。この状況は本研究助成事業だけでなく、国内外の他の研究助成事業でも同じと聞きます。物理・化学・地学・数学などの基礎科学の弱体化が起こっていないかと気がかりです。

それぞれの専門分野の申請傾向については、分野責任者と選考委員長の総評を見ていただくことにして、全体に共通している点を三つ上げます。一つは、多くの研究が先鋭化していることです。研究成果を上げる点では素晴らしいことですが、ともするとその研究の位置づけを見失う危険があります。是非、少し引いた位置から自分の研究を眺める余裕を持っていただければと考えます。二つは、様々な科学技術が開発された結果、無理矢理最新技術を使おうとする研究です。研究は必ずしも最新技術を使うことではありません。三つは、それぞれの研究分野、あるいは科学・技術全般を俯瞰した視点、または物事の考え方を考えることにつながりそうな研究課題が見当たらないことです。

実践研究部門では、2013年度から学校・NPOなどに所属する人たちが行う調査・研究を支援する問題解決型研究と、学芸員・司書等が行う資料の調査・研究の支援と、窓口を2つ設けて申請を受け付けています。2020年度の実践研究の申請は教員・NPO等研究32件と学芸員等研究18件の合計50件あり、2017年度124件、2018年度65件、2019年度48件とこのところ年々減少して来ましたが、2020年度でやや持ち直した感があります。実践研究部門にみられるこのところの申請件数の低下には、電子申請化の影響も考えられますが、それ以上に実践研究部門の申請者の多くが、研究助成への申請の難しい環境に置かれていて、しかも年々状況が厳しくなっている可能性が憂慮されます。

研究助成を受けられた方には、翌年2月に研究完了報告を提出していただき、それらをもとにして各選考委員会で研究評価を行います。2007年度から、優秀な成果を上げた研究者には研究奨励賞が授与されています。学術研究部門の6系（生物系は生理・発生・分子・生花・遺伝などと分類・生態・農・水産などの2分野）と「海に関係する研究」、ならびに実践研究部門からそれぞれ2人ずつ合計16名が選ばれ、研究奨励の会で研究発表をしていただき、賞状と副賞が授与されます。今年度は、研究奨励の会を2020年4月17日（金）にANA インターコンチネンタルホテル東京で予定しておりましたが、残念ながら新型コロナウイルスの流行でやむなく中止といたしました。

さらに、日本で活躍中の笹川科学研究助成者（OB・OG）には、2001年度から海外での研究発表の旅費と参加費用を支援し、その数は年間58～83件に上ります。また、OB・OGと企

業との関係の構築を意図して、企業関係者を対象としたOB・OGの第1回研究発表会を2019年9月に開催し、OB・OGと企業関係者の双方から好評をいただきました。研究発表会は本年度も引き続いて企画していく予定です。同時に、OB・OGが進めている研究内容を社会に広く知ってもらうために、OB・OGの研究内容を出版社に紹介して科学一般書として出版する支援を始めました。

笹川科学研究助成事業は、日本国内で活躍する優れた若手研究者を発掘して支援し、日本をはじめとして世界の将来の科学・技術の発展に寄与してまいります。

重点テーマ：「海に関する研究」 総評

海洋関連研究責任者

2020年度は2019年度に開始されたように、各系への申請の中で重点分野として「海に関する研究」にチェックをした申請書の評価を行いました。そのこともあって、さまざまな分野から240件と多くの提案がありました。4年生と博士前期課程の申請者が全体の約56%、博士後期も加えると80%を超しており、昨年度よりもさらに学生からの申請が多くなっていました。今後も、多様な機関から意欲的な申請を期待しています。

1. 全体的な総評

- 電子申請に移行後、申請書のレベルがとて上がったように感じられますが、今年度は昨年よりもさらに上がっているように思われ、選考で大変悩みました。各々が興味深い研究課題に取り組んで居られます。また多くの申請書は、独りよがりではなく、他分野の人にも理解してもらうよう努力の跡が認められました。選に漏れた方も自信をもって研究を続けていただきたいと思います。
- その一方で、誤字脱字が非常に多かったことも指摘しておきたいと思います。もしかするとワードプロセッサの自動添削機能が悪さをしているのではないかと疑うほどでした。残念ながら、指導教員の推薦文も同様でした。誤字脱字は誰にでも起こることですが、それを読む立場の者は集中力を削がれてしまうため、理解しながら読み進めるために大変なエネルギーを消費します。是非、申請前に注意深く推敲をしてください。
- また申請書によっては、肩に力が入ってしまったのか、研究内容に対してその目的が大きすぎて「本当にそんなことが実現できるのかしら？」と考え込んでしまうようなものもありました。書き方にもよると思われますが、それぞれの申請書でさらに工夫が必要であると考えます。
- 所属する研究室が進めてきた研究から派生する課題を排除するものではありませんが、その分、せつかくしっかりした研究基盤があるので、その中で独自の視点からの研究課題の抽出と、ポイントを押さえた計画の立案が期待されます。一方、申請者の発想による課題の設定は強く推奨されるどころです。発想に独自性があるものの、教科書的な課題設定や独善的な計画に終始しているものも散見され、関連する研究や学問的な基礎を十分に踏まえたうえでの研究計画の構築が期待されます。
- 申請者や研究室の関連研究に関する説明が多く、当該申請課題での研究目的、研究内容、新規性、独創性が明確に述べられていない申請書が見受けられます。そのような申請書はあまり高く評価することができませんので、しっかり書き込んでアピールして下さい。
- 申請する研究経費の内訳は、研究計画の具体性を示していますので、大まかな項目と金額

の記載だけでは不十分で、具体的に何を購入して、どのように使用するのかが読み取れるように記入してほしいと思います。

- 本申請は1年計画です。そのことを念頭に置いた計画が必要です。研究を継続している研究者によっては、当然結果について学会や論文発表をすることを希望することはわかりますし、ぜひ発表をしてもらいたいと思います。しかし、予算の大半が発表のための予算申請は本研究助成の趣旨には添わないと考えられますので気を付けてください。

2. 個別の分野に関する総評

- 生物分野では、生物的にもウィルスから、バクテリア、アーキア、原生生物、藻類、様々な種類の多細胞動物、魚類、哺乳類と、海洋に住む生物の多様性そのものに対応した、多様な生物を対象とした申請があります。また、学問的にも、生物海洋学、生態学、分類学、進化学、生理学から水産、環境保全、薬学など千差万別です。そのような多様な申請の中で、自分の研究がどう新しく、面白いのか、重要であるかを、端的にアピールする申請書を書く必要があります。
- 申請書によっては、確かに海洋生物を対象としているけれども、じつは「それだけ」というように見えるものも散見されました。環境 DNA を用いた研究計画が増えてきましたが、技術的に困難ではと推察される課題が散見されます。期待される成果のうち十分に可能な部分と、挑戦的な部分を区別して記述すると良いと思います。国外における調査や生物標本の採集に関する課題も多くありますが、近年、国際的な議論となっている ABS 等への対処方針を記述することが望ましいと思います。対象国や課題によっては、準備に一年以上を要するケースもあります。
- 生物系で申請されてきた分野は多様ですが、その中でも免疫や病理に関わる分野の申請が多かったという印象です。この分野は対象生物もさることながら、その出口もまた、基礎学問の探究から、ヒトの健康に資するもの、あるいは養殖現場での動植物の治療や診療に役立てようとするもの、と非常に多岐に亘ります。これらが一度に俎上に載るということを考えて、申請書の作成をお願いしたいと思います。
- 地球化学・海洋環境・地学分野の申請では、今年は海外出身の学生さんなどの申請書で質の高いものが幾つかありました。研究は最終的には論文として結果を発表しないと、他の研究者/一般市民も成果に接することができません。そこで、実際に研究が終了したら、論文をきちんと出版することを求めたいと思います。国際誌に投稿すると、その分野で最高レベルの査読者により、原稿にチェックが入ります。このコメントに答える時に、研究者はさらに勉強することになり、出版できた暁には、「少し利口」になれます。
- 海洋物理学分野では、海洋物理学そのものに関する課題が少ない中、さまざまな生物の挙動や分布に物理過程がかかわるテーマの申請が多くみられました。そのような研究テーマの中に独自色が強いと感じられるものが多く、研究者としての資質が垣間見られるものも見られました。所属する研究室が長く取り組んできたテーマに基づくものも当然多くあり、

それらは学問的にはしっかりした背景に支えられたものであることがわかるが、申請課題がそこから派生したものであるがゆえに、意外性という点でインパクトの弱いものになる印象もありました。バイオリギングが普及してもう長くなりますが、生物の挙動と波浪など環境を同時に計測する手法には新鮮さが感じられました。

- 海洋工学分野では、今年度の目立ったキーワードとして挙げると、1. 人工知能 AI、2. 海洋再生可能エネルギー、3. 地震・災害のようになります。人工知能 AI については、船舶等の自律航行という形での研究課題が目立ちました。特に、水面上にある ASV (Autonomous Surface Vehicle) と AUV (Autonomous Underwater Vehicle) の連携を取り扱った研究課題が増えてきており、より実用段階に近づいて来ているとの印象をうけました。また、水産分野においては、魚類の行動や漁網の状態を検知するために AI 技術を利用する課題も複数ありました。海洋再生可能エネルギーに関する研究では、海流発電技術の開発に関するものや、洋上風力発電等の安全性を評価・支援するための研究課題がありました。地震・災害に関しては、海底地震のメカニズム解明や、災害時の船舶や ASV の応用に関するものが目を引きました。また、全体を通して、市販ソフトウェアによるシミュレーションを行う研究計画が幾つか見られましたが、シミュレーション結果をどのように評価するかを述べておらず、高評価に至らないものもありました。コンピュータによるシミュレーション結果は、実験結果など、何らかの結果と比較して評価されるべきであり、シミュレーション計算だけに頼った研究計画は避けるべきでしょう。
- 船舶工学分野では、申請された研究には、それぞれの研究分野において積み重ねられてきた研究成果や自身の研究成果に基づいて、さらなる発展を目指したもの、斬新な着眼点に基づいて研究の立案を行ったもの、非常に少ない機会を生かして研究を計画したものなどが見られ、甲乙つけがたいものが多くみられました。選に漏れたものには、着実な発展を目指したものの新規性の作り込みが不足していると判断されたもの、新しい着眼点に特徴がみられるものの、課題設定の妥当性に工夫が必要と判断されたものがあり、そのなかで研究の新規性、期待される成果、計画の妥当性のバランスの良いものが選ばれたと考えられます。
- 人文・社会科学分野では、2020 年度は過去 10 年間で、昨年度に次いで多くの申請件数がありました。内容的にレベルが高い申請案件とそうでない申請案件の二極化現象が見られました。今後は、文化・芸術関係もどしどし申請してくれるようになることを期待します。次年度以降も理工系に限らず数多く、しかも内容の濃い申請が集まることを期待します。

2020 年度人文・社会系総評

人文・社会系選考委員会委員長

日本科学協会の笹川科学研究助成に、今年度も若手研究者による多数の申請が寄せられたことは、今後の日本の学問研究の興隆に寄与するものと、おおいに期待するものです。

今年の申請全体を見渡して、研究の目的や方法を詳細に説明し、自らの研究の現代的意義や方法の新しさをわかりやすく説明している申請、さらに学問的熱意をもった真摯な申請が数多く見られました。ただ、その独自性の説明が専門分野に閉じすぎ微細な説明に限られ、より広い社会性や時代性からの説得力や普遍性の付加が求められるなど、いくつか気になる点が出てきたのも事実です。そこで、以下に2020年度申請をめぐって、感想と留意点を記します。

- 1 専門性が十分に深められる研究である必要とともに、その意義が多くの人に理解できるように書く必要があります。研究のより広い分野での意義や社会性・普遍性の広がりを意識して、専門の異なる評価者にも理解できるように、独自性や意義をわかりやすく説明する工夫が必要です。したがって、研究の独自性や意義の説明は、2段階で叙述するのも一法です。つまり、狭い専門分野での先行研究にはない、自らの研究によって突破し開拓しうる成果を説く。そして、関連する複合領域やより広い社会全般から自分の研究がどのように意義あるのかを説く、という広狭の意義説明の重要性です。
- 2 独自性・新規性に充ちた問題意識を堅実に深めていく研究を求めています。その意味で、高齢化社会を象徴する「空き家の仏壇」を捉える研究や、「児童福祉」、障がい者の就業支援さらには「新人医療ソーシャルワーカーの離職」のテーマ化など、福祉の枢要性という時代の要請を着実に捉えた研究等に良い研究が増えて、テーマが広がっているのは、新規性ある実践的な切り込みの現れと理解しています。国際政治に関しても「骨太」の研究申請が認められました。テーマは、「アフリカでのオンライン調査の実施」「情報社会における個人のアイデンティフィケーション」など電子テクノロジーの普及と新しい媒体の在り方を問う主題にも広がり、また扱う地域も、日本国内からルーマニア、タンザニア、中国、カンボジア、アメリカ、マレーシア、ウクライナ、イタリア、イスラエル等とグローバル時代に相応した広がりを見せています。先進国、新興国、発展途上国ともに、意義ある対象であり、対象地域による選考の有利不利はありません。

もちろん、良い研究とは、新規な対象にとりつけばよいなどといったものではありませんから、今までと同じように、直接のプラグマティズムや実践性を含まなくとも、伝統的領域に土台を置く基礎研究は、重要な課題であり続けています。このとき、フォーカスの

絞り方が「甘い」研究がやや多くみられたことは、残念な現象です。着想の萌芽性には評価できる点を有しながら、その研究実績が伴っておらず評価を下げざるをえない研究や、研究計画を実施する上での説得力に欠ける申請もありました。

当該研究分野で時代の風潮を受けたキーワードを多用しただけの申請は評価が低くなりますし、逆に古典的な枠組みから一步も踏み出せない申請も評価が低くなります。広い社会貢献や時代貢献にかかわる際に、問題の流れやトレンドを捉えるにしても、自分の研究の観点から再整理して自研究に再定置し学術ベースに耐えうる叙述とすることを期待します。若手研究者の、基礎研究をしっかりとちつつ、自分のキャリアに見合った研究計画を作成し、そこに独創性に満ちた情熱と日本の学界を背負っていく気概を込めて申請していただきたい、と期待します。その意味で、海外における外国語での論文発表や、国際会議における外国語による口頭発表の経験をすでに持っている申請が少なくなかったことも、基礎からの説得力ある発展形だと評価されました。

- 3 研究計画について、自分の研究としてスケールの大きい研究や比較研究を持っているのですが、本助成のような単年度申請では、焦点を絞る方がよい。これに関連して、「期待される成果」では、1年の助成期間内のものではなく、自分の研究全体が成就した際の成果について書いている申請が見受けられました。したがって、研究計画では全体像を示しながらその実施計画としての、単年度では限定され選択された諸地点に焦点を絞り、綿密に調査をおこなって結果を出す方がよい、と考えています。
- 4 研究内容では、研究方法の記述に踏み込んだ説明が必要です。つまり、漠然と研究項目を列挙するだけではなく、その実施方法として、フィールドワークを行うのか、アンケート調査をするのか、研究室で実験をするのか、その具体的なプロセスや研究方法を明示する必要があります。理論研究では、単に図書を読むという方法だけでは助成を獲得する強いインパクトになりません。1次資料や図書発見に向ける資料探索の調査行やプロセスを示して、研究の独自性や新規性に結びつけて強調する工夫に期待したいと思います。このように、研究内容では、研究項目の他に、調査手段・方法を手順とともに具体的に示すということを意識してください。
- 5 海外におけるフィールドワークに基づく研究計画を提案している申請が多くあり、その具体性と積極性は高く評価したいと思います。現地調査を含む地域研究が多く申請されました。この際、考古学の発掘調査や人類学の住込み調査など、外国で長期調査をおこなうときには、「物見遊山」と誤解されないためにも、当該国のカウンターパートや研究協力者、共同研究機関、身分保証機関などを明示しておくほうがいいでしょう。今年の申請には、「旅費捻出のために申請した」と受け取られかねないものも含まれており、反省を促したいと思います。予算と研究計画との整合性が求められます。

- 6 関心をひいた分野で言えば、ビッグデータを用いたり定量的な資料扱いをして分析したりする考古学研究が増えたことも挙げられます。視点の持ち方や資料の扱い方によって多様なテーマ化が可能なのがわかります。考古学以外でも、例えば、「宗教と近代体制との相互協調性」「海を越えた『イタリア統一運動』」「ヨガに関わる治癒と癒し」など、独創性ある焦点化を図っている研究がありました。どの分野でも、研究の目的、特色、研究背景、社会的意義を明確にし、狭い専門から広がる複数の審査者が評価することになるので、専門外の人にも理解が容易となるような記述を心がける必要があります。
- 7 支出計画では、図書費を漠然と計上している申請が少なくありません。図書館などで閲覧可能と思われる書籍を購入しようとする申請は、評価が低くなります。そこでしか入手できない地方出版物や特殊な出版物など、その書名を明示するなどして、図書資料の購入の必要性を説いて欲しいと思います。アルバイトを使うなど謝金の使用についても、それが本当に必要な助力か十分にチェックされることをお勧めします。基本的に、若手研究者が「自ら汗をかく」研究態度が求められます。往復の旅費交通費だけ突出した料金で申請し、他の研究項目に資する出費を計上していないものも、実現可能性が低く評価されます。
- 8 パソコンなど機器の購入は、基本的に研究室や大学で用意してほしいものと考えています。支出計画を作るときには、調査や研究行為の頻度や場所、所在地、個数、機器の使用、そこに行くことの必要性など、研究計画をもう一度見直し、研究計画と支出計画に整合性や合理性があるかをしっかり確認して、申請して下さい。旅費交通費に限らず、偏りある支出計画も無理があり、これだけで研究が遂行されるとは考えられません。研究遂行上の多岐項目を意識し、多様でバランスの取れた研究遂行を図っていただきたいと考えます。
- 9 支出計画で、もう一つ問題とするのは、学会参加や学会年会費に当てる費用支出です。複数学会への参加で著しく多い学会旅費を計上している申請がありました。学会参加は、発表するとしてもそれは研究のアウトプット行為であり、「一般的な」情報収集の行動であり、研究そのものを構成し創り出す主たる活動や調査ではありません。笹川科学研究助成の人文・社会系の選考委員会では、学会参加費や学会年会費などは、国内・海外を問わず、研究調査の支出項目としては優先度が低いものと考えています。ここでは多くの場合、研究計画に書かれている研究を深める内容と支出が一致しておらず、厳しい採点になるのは避けられません。パソコンソフトの購入も研究主題からすれば、周辺的な支出と判断します。研究内容の充実・発展そのものを形作る中心的で不可欠の研究活動への支出を堅実に組み立てていかれることをお勧めします。
- 10 一人の研究者として独自性を出す努力を必要とする研究計画が散見されましたので、普段から、自分の研究の方向を明らかにするために、幅広い情報を収集し考察することが重

要だと考えます。また、優秀な研究内容であると高評価を得ながら、同一研究室や同一分野研究の相対的な順位によって採択に結びつかなかった申請もあります。自らの研究内容にいい意味での自負を再確認され、過去に不採択であっても、自研究の更なるブラッシュアップをほどこし再度申請される学的意欲に期待したいと思います。また、今年度は、やや人文科学分野の申請が多くありました。多くの社会科学分野の申請にも期待したいと思います。また、今年、生物系など本来理系と範疇化できる研究でも、人文社会系に申請されたものがありました。現象に複合性があるのは自然なことだとしても、自己の研究分野がどの系に属すると規定したらよいか、熟慮の上で応募していただきたいと思います。

以上の点を留意され、学問的意欲にみち誠実で独創的な研究申請を今後も行っていたきたいと期待します。

〔人文・社会系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
茨城県	2020-1005	浅田 直規			筑波大学大学院人文社会科学研究所国際公共政策専攻	博士後期課程2年	児童福祉における「家族」の成立に関する人類学的研究—ルーマニアの里親制度を事例に—	650,000
	2020-1020	三津山 智香	女		筑波大学大学院人文社会科学研究所歴史・人類学専攻	博士課程5年	家畜守護に関わる信仰の地域的特徴の把握に向けた民俗学的研究—福島県白河市を事例に—	700,000
	2020-1030	丸山 優樹			筑波大学大学院生命環境科学研究科国際地縁技術開発科学専攻	博士後期課程3年	セネガルにおけるオンライン調査システムを活用した農家の作付け意思決定モデルの構築	700,000
千葉県	2020-1032	郭 ギョンヒ	女	韓国	千葉大学大学院融合理工学府創成工学専攻	博士後期課程3年	海の暮らしが育んだ千葉県の伝統的工芸・万祝の型紙のデジタル化とその活用：持続可能な地域活性化に向けて	540,000
東京都	2020-1012	王 楽	女	中国	東京大学情報学環・学際情報学府	特任研究員	満洲国の多民族社会における「宣撫」概念の形成に関する研究	700,000
	2020-1007	太田 圭			東京大学大学院人文社会科学系研究科考古学専門分野	博士課程3年	縄文時代中期／後期移行期における社会変容プロセスの解明—土器・住居・土器埋設遺構からみる地域間関係—	600,000
	2020-1013	味志 優			東京大学大学院総合文化研究科	博士課程5年	タンザニア農村部における汚職の実践や認識のあり方に関する人類学	460,000
	2020-1015	澤口 右樹			東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻	博士後期課程1年	現代イスラエルにおける軍隊とジェンダー：女性の兵役経験の語りから	610,000
	2020-1019	鳥飼 将雅			東京大学大学院法学政治学研究科	博士課程5年	混合政体における政変後の政党制の再編：ウクライナにおける政変後の議員と政党の分析	700,000
	2020-1002	高宮 秀典			東京大学大学院法学政治学研究科総合法政専攻	博士後期課程4年	参議院の人材的な独自性と政策的帰結—参議院の利益表出機能とシニア性に着目して—	400,000
	2020-1011	ケイ 光大		中国	慶應義塾大学大学院社会学研究科	博士後期課程3年	宗教と近代体制との相互協調性の比較研究：台湾の「釈教」と中国広東省の「香花派」の事例から	600,000
	2020-1010	栗原 美紀	女		上智大学アジア文化研究所	特別研究員	「治療」と「癒し」の間：マレーシアにおけるヨガの指導をめぐる社会学的研究	600,000
	2020-1025	北嶋 健治			早稲田大学教育総合科学学術院	助手	情報社会における個人のアイデンティフィケーションの検討	250,000
	2020-1004	下田 麻里子	女		早稲田大学大学院文学研究科考古学コース	博士後期課程1年	カンボジア ポスト・アンコール期王都ロンヴェークの都市構造に関する考古学的研究	700,000
	2020-1023	張 龍龍		中国	早稲田大学文学学術院	助教	台湾大撤退の国民党兵士たちと中断された人生：成人移行期における強制的移動と兵役経験	700,000
	2020-1035	大村 文乃	女		日本大学芸術学部	研究員	サンゴ礁のイカ「コブシメ」の博物画を用いた海洋教育教材開発と効果検証～科学と芸術の融合を基に～	490,000
京都府	2020-1024	久保田 ちひろ	女		京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科アフリカ地域研究専攻	博士課程3年	ケニアにおける契約農業で実践される集団的自助努力—その課題と可能性—	350,000
	2020-1014	林 孝洋			京都大学大学院人間・環境学研究科共生文明学専攻歴史社会論講座	博士後期課程3年	海を越えた「イタリア統一運動」—サンフランシスコのガリバルディ支援—	700,000
	2020-1021	三浦 憲			京都大学大学院農学研究科生物資源経済学専攻国際農林経済学講座	助教	農村発展における地域エリート(村長・首長)と社会的慣習の役割の解明：アフリカ実証政治経済学の構築	700,000
	2020-1016	大平 理紗	女		京都府立大学大学院文学研究科史学専攻	博士後期課程2年	中国北朝陶俑の考古学的研究—写真三次元計測による同范・同型品の抽出を中心に—	630,000
	2020-1009	山田 翔太			立命館大学大学院国際関係研究科国際関係学専攻	博士後期課程5年	開発援助により変化する資源の維持管理と活用方法—バングラデシュ農村の飲料水を事例に—	650,000

〔人文・社会系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
京都府	2020-1031	八木 達祐			立命館大学大学院先端総合学術研究科	博士後期課程4年	ケニアにおける暴動の記憶とスラムツーリズムに関する人類学的研究	450,000
大阪府	2020-1034	松永 千紗	女		総合研究大学院大学文化科学研究科地域文化学専攻	博士後期課程3年	非エスニック化する日系人街-21世紀アメリカにおける「コミュニティ」構築の実践を中心に	520,000
	2020-1003	高垣 里衣	女		大阪大学大学院文学研究科文化形態論専攻西洋史学専門分野	博士後期課程3年	大西洋革命期におけるスペイン北部商人による海洋商業ネットワークの展開	340,000
	2020-1006	千葉 知世	女		大阪府立大学人間社会システム科学研究科	准教授	離島漂着ごみ問題の法制度的課題と費用負担配分：和歌山県友ヶ島をモデルとして	780,000
	2020-1017	邱 吉		中国	関西大学大学院東アジア文化研究科文化交渉学	博士後期課程1年	王一亭と近代日本美術界：大正・昭和前期の「興亜美術」運動に関する研究	580,000
兵庫県	2020-1018	土取 俊輝			神戸大学大学院国際文化学研究科文化相関専攻	博士後期課程2年	死者のエージェンシーから考える空き家の仏壇—新潟県佐渡市外海府地方を中心に—	670,000
	2020-1033	萩藤 大明			神戸大学大学院法学研究科	研究員	戦後初期米国の東アジア安全保障政策と日米安全保障条約, 1953-1961年	280,000
岡山県	2020-1022	倉本 亜優未	女		岡山県立大学大学院保健福祉学研究科保健福祉科学専攻	博士後期課程2年	新人医療ソーシャルワーカーの職務継続に関する探索的研究	530,000
広島県	2020-1028	中村 大輝			広島大学大学院教育学研究科教育学習科学専攻	博士後期課程2年	理科の問題解決における仮説設定の質と深い学びに関する研究	430,000
	2020-1026	石川 雅章			広島大学大学院教育学研究科教育学習科学専攻数学教育学領域	博士後期課程2年	数学的モデル化における日常言語から数学言語への翻訳過程の困難性に関する研究：言語学・論理学に着目して	400,000
愛媛県	2020-1008	Megita Ryanjani Tanuputri	女	インドネシア	愛媛大学大学院連合農学研究科	博士課程2年	サプライチェーンの再設計による貧困削減	400,000

2020 年度数物・工学系総評

数物・工学系選考委員会委員長

I. 全体の講評

科学の発展はより新しい技術を生み出し、新しい技術は更に科学を発展させます。今日の科学技術の高度化に伴い、研究の先進性が格段に高まっていて、申請には新しい技術を用いて研究のアイデアを実現するような研究題目が多く、その研究課題や研究計画には独創性が見いだされ、様々に創意工夫がなされており、大学院生や若い研究者がこの状況に臆することなく果敢に取り組み、独自の視点を見だし新たな発見をなしつつあることは誠にたのもしい限りで、この研究助成の趣旨が生かされています。

数物・工学系の分野は、数学、宇宙・天文学や地球惑星科学、素粒子論、物性物理科学、基礎工学全般、材料科学・工学、機械工学や電気・電子工学、建築学・都市工学や土木工学、生命・環境科学やエコロジー科学、高度情報化社会でのシステム技術・情報工学、それらが複合的に組み込まれた総合科学技術工学、など広範囲に及び、さらには建築史に関するものなど当該分野として評価対象としています。

具体的には、代数学や位相幾何学、統計学といった数学分野の申請がいくつかありました。素粒子・天文分野の理論研究ではブラックホール、暗黒物質、ニュートリノ質量など、いわゆる標準理論を超えるための理論展開を中心にした取り組みがほとんどを占め、重力波実験に関しても理論のみならず実験への取り組みの申請もあり、新時代の幕開けを思わせる素粒子物理学の進取の意気込みが感じられ、今回も資金的支援の届きにくいこれらの申請が多数ありました。宇宙での隣元素が少ないにも拘わらず地球での生物は重要な元素として凝集して存在していることに関して、生命の起源にも関わるとして、宇宙での隣元素の存在を探索する、という他分野横断的な特異な研究テーマもありました。

固体物理関連では、超伝導、磁気ソリトン格子、熱ダイオードといった研究、磁気浮揚のメカトロニクスなどがあり、流体力学・連続体力学関連や、ナノサイエンス、マイクロ流体デバイス、量子ナノ構造といった微細科学技術関連の研究、生体分子反応検出新技術開発、界面化学、生物物理、放射線化学の治療応用や複合材料による消毒といった生命科学、未利用熱有効利用化といった熱伝工学、環境科学工学関連や走査電顕計測など、広い意味での応用物理的な研究が多数あり、それらの中には創造性に富んだ研究が数多く含まれていました。さらに上記のくりに当てはまらないようなユニークな、バーチャル電極刺激による微小管滑走制御、海上交通安全用実時間情報処理目的の曳航マルチロータ機研究、激甚宇宙天気災害時電力供給リスク評価、操り人形ロボットモーションデザイン研究、インド酷暑地域小学校熱中症対策の研究、久留米絣伝統工芸支援技術開発、といったものが挙げられます。

ところで、産業における技術開発は、その立脚基盤上での発展を意図するものであり、先進性ばかりでなく、多くの経験や実務的能力の充実を必要としています。技術開発への寄与を目指している当該分野申請の多くの若手研究者が、現場のニーズからの乖離という側面も感じられ、望ましい研究開発者の養成につながるのかという不安も覚えますが、結局のところ、これらの不安を払拭させる最も大きな要素は、若い研究者の才能と情熱と力量にあると考えています。当該分野で論文が書けるという狭い意味での専門性だけに留まらず、広い基礎的学力と発想力、実験装置の構想から実現、その性能向上に至らせる実務的能力の一層の充実を期待します。

研究の容態については様々ですが、中にシニアの研究グループが目指している研究課題や、大規模な研究組織のビッグプロジェクト研究課題での分担的な開発に関わる研究課題の申請がいくつかありました。それらの研究には複数の研究者の間での議論が重要で、歓迎すべき研究方法です。しかし、その一方、それらの研究機関や研究組織所属の申請者への助成が本助成事業とどのように整合するか、すなわち、ここでは申請者の個性を発揮した積極的な創意工夫・研究に対して評価を行っています。申請者個人への支援と大きなプロジェクト研究との関わりをどう評価するか、選考に際して苦慮したところです。ここでは所属している研究機関等の研究活動の中にあつたとしても、申請者自身がどのような過程からどのような着想に至ったのか、プロジェクト研究の中での役割や位置付け、研究方法、貢献の度合いなどが、重要な判断材料としてより明瞭な記述が望まれます。1つの研究グループから複数の申請が出されたケースでは、申請者それぞれは具体的なテーマと内容について個性的かつ独創的で目標も異なっている事は当然ですが、研究グループとの関わりや研究の位置づけ、指導体制など、明確に記載して下さい。

理論研究の大部分が国内や海外への研究交流や発表のための旅費の申請であり、他の実験を伴う申請とのバランスを考え、配分比率に配慮し、その結果、より多くの申請者に配分の機会を広げることができました。

いずれにしても、今回申請されたほとんどの研究課題が成就された暁には、最先端の科学技術への重要な貢献をもたらすものとなりましょう。なかには、社会に対する貢献を強く意識した研究課題もあり、大いにその寄与が期待できます。このような有能な多数の申請に対して、採用枠に限りがあることは、採否の選別を大変苦しいものにしていきます。残念ながら今回採択されなかった申請課題に対しても大いに期待を寄せています。次回の申請を歓迎します。

II. 研究経費について

研究予算の記述が相変わらず雑なものがありました。大雑把な目算で見積もるのではなく、1年間の研究計画とそれに対する予算との具体的で緻密な整合性をもたせた算定をして下さい。これは研究計画の実現性に対する重要な判断材料です。研究上それらが真に必要なものか十分検討して欲しい問題です。

研究の国際化が従前以上に発展していることから、研究打ち合わせや研究発表目的の海外渡航費などの申請も増えていますが、研究遂行との関連が希薄なものが見られました。選考委員会としては、助成金額の総額に制約があり1年単位でもあることから、研究そのものの助成を主とし、内外旅費等はあくまでも従とする立場です。成果発表のため国内外の旅費に研究費の半分以上を充てるというのは、本助成の意図とは異なります。

なお本会には、成果が得られた本助成研究者に対して、後年度に、海外発表旅費を助成する制度もあることを念頭に置いて下さい。

〔数物・工学系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
青森県	2020-2017	畑澤 研太			弘前大学大学院理工学研究科理工学専攻知能機械工学コース	博士前期課程2年	バーチャル電極による電氣的刺激を用いた微小管滑走の可逆的かつ局所的な制御	680,000
宮城県	2020-2016	沓間 弘樹			東北大学大学院理学研究科天文学専攻	博士後期課程3年	CMB偏光観測による原始重力波の探索-8周波数帯データ統合による前景放射の除去	400,000
山形県	2020-2013	谷本 拓			山形大学大学院理工学研究科地球共生圏科学専攻	博士後期課程1年	放射光とレーザーを組み合わせた光電子分光法によるMg ₂ Si単結晶における表面光起電力効果の解明	400,000
茨城県	2020-2022	花澤 聡太			茨城大学大学院理工学研究科理学野	博士特別研究員	ピュアスピノール形式による超弦理論と一般化された低エネルギー有効理論の解明	320,000
	2020-2035	佐久間 東陽			筑波大学大学院システム情報工学研究科社会工学専攻	博士後期課程3年	衛星リモートセンシングによるサトウキビ農地帯からサンゴ礁域への赤土流出モニタリング法の開発	630,000
埼玉県	2020-2004	長谷川 健太			埼玉大学大学院理工学研究科理工学専攻	博士後期課程3年	エンタングルメント第一法則を用いたラリタシュウィングー場の方程式の導出	550,000
千葉県	2020-2040	鳥居 翔			東邦大学大学院理学研究科情報科学専攻	博士前期課程1年	CAT(0)空間及びCAT(1)空間における写像と不動点近似列の生成による不動点理論の展開	550,000
	2020-2011	楠本 多聞			量子科学技術研究開発機構放射線計測グループ	博士研究員	オージェ電子放出核種を使用した標的アイソトープ治療における間接作用の役割の解明	700,000
東京都	2020-2037	加藤 哲			東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科海洋システム工学専攻	博士前期課程2年	小型自律航行ロボット(ASV)による海洋資源探査SWARMの牧羊犬制御システムの開発	840,000
	2020-2034	佐山 将太郎			東京工業大学大学院工学研究科機械系	博士後期課程2年	ホホジロザメを題材としたマイクロ微細構造がマクロ流れに与える影響についての研究	790,000
	2020-2010	荒井 玲於奈			東京工業大学大学院理学院物理学系	博士後期課程3年	AdS/CFT対応の検証とその応用から探るブラックホールの微視的構造	580,000
	2020-2025	樗木 悠亮			東京大学大学院工学系研究科先端学際工学専攻	博士後期課程1年	中間バンド型太陽電池の高効率化に向けた高密度量子ドット・ナノリングの作製と評価	750,000
	2020-2023	山口 正行			東京大学大学院理学系研究科天文学専攻	博士課程3年	超解像度画像復元法を応用したサブミリ波観測による矮小原始惑星系円盤の解明	430,000
	2020-2029	Pranshu Bhatia	インド		創価大学大学院工学研究科環境共生工学専攻	博士後期課程1年	熱加水分解と水蒸気爆砕によるリグノセルロース系バイオマスのメタン発酵前処理の検討	690,000
	2020-2027	渡部 真史			中央大学理工学部都市環境学科	助教	津波石を活用した津波波源推定法の構築	750,000
	2020-2036	董 然		中国	東京工科大学コンピュータサイエンス学部	教育職員(助手)	人と操り人形のインタラクション:日本の伝統美である序破急と間を用いたロボットモーションデザイン	750,000
神奈川県	2020-2008	中村 航			横浜国立大学大学院都市イノベーション学府都市地域社会専攻	博士前期課程2年	海面上昇と気候変動の影響を考慮した、マングローブが繁殖する海岸の長期的な地形変動モデルの作成	840,000
	2020-2009	森 遥	女		北里大学大学院理学研究科分子科学専攻	博士後期課程1年	新しい幾何学を用いた初期宇宙のミクロな時空構造の解明	600,000
長野県	2020-2012	矢澤 明喜子	女		信州大学大学院総合医理工学研究科総合理工学専攻	博士課程2年	マトロイドおよびポリマトロイドから構成される環の強レフシェッツ性について	450,000
	2020-2018	阿部 駿佑			信州大学大学院総合医理工学研究科総合理工学専攻	博士課程3年	未利用熱の有効利用を可能にする高汎用性スラリー熱媒体の流動・伝熱特性に関する検討および流動性の向上	750,000
新潟県	2020-2024	吉田 貴裕			新潟大学大学院自然科学研究科数理解物質科学専攻	博士後期課程3年	電弱スケールの右巻きニュートリノによる物質生成機構	550,000

〔数物・工学系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
石川県	2020-2006	Zhang Jiaqi		中国	北陸先端科学技術大学院大学マテリアルサイエンス学系	博士後期課程3年	周波数変調型力センサーを組み込んだTEM観察法による金や白金ナノメカニックスの解明	650,000
愛知県	2020-2020	中村 紗都子	女		名古屋大学宇宙地球環境研究所	特任助教	激甚宇宙天気災害時における地磁気誘導電流の日本電力供給へのリスク評価	450,000
	2020-2021	齊藤 天晴			名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻	博士後期課程1年	HED隕石の高精度年代測定により解き明かす原始地球型惑星ベスタにおける初期地殻分化プロセス	570,000
滋賀県	2020-2005	吉田 圭介			立命館大学大学院理工学研究科基礎理工学専攻物理科学コース	博士前期課程2年	スナップフィットのメカニクス：弾性、かたち、摩擦が生み出す非接着的かつ分離可能な接合機構	400,000
大阪府	2020-2030	愛甲 将司			大阪大学理学研究科物理学専攻	博士後期課程2年	ヒッグスセクターの構造解明と宇宙バリオン数生成問題	620,000
	2020-2003	鈴木 光世			大阪市立大学大学院理学研究科数物系専攻	博士後期課程1年	グラディエントフローによる超対称理論への新たなアプローチ	250,000
	2020-2026	小島 かな子	女		大阪府立大学大学院工学研究科航空宇宙海洋系専攻	博士後期課程1年	自律型洋上機と水中グライダーを用いた海獣類の生態調査方法の提案	850,000
兵庫県	2020-2028	長足 友哉			神戸大学大学院理学研究科惑星学専攻	博士後期課程2年	原始惑星系円盤ダストのサイズ成長に関する実験的研究 -自由落下ダスト流を用いた新手法-	690,000
奈良県	2020-2019	張 天龍		中国	奈良先端科学技術大学院大学	博士後期課程2年	フェムト秒レーザーを用いた細胞小胞の高速高純度分離マイクロ流体デバイスの開発	710,000
広島県	2020-2015	比嘉 野乃花	女		広島大学大学院	助教	希土類キララらせん磁性体における磁気ソリトン格子の動的状態	610,000
	2020-2041	Dai, Ming-Jyun		台湾	広島大学大学院工学研究科	博士後期課程2年	ペリダイナミクスを用いたシェル構造解析に関する研究	490,000
	2020-2014	Septia Hardy Sujiatanti	女	インドネシア	広島大学大学院工学研究科輸送環境システム	博士後期課程2年	繰り返し荷重を受ける防撓パネルの構造強度解析に関する研究	940,000
山口県	2020-2031	辻倉 景子	女		山陽小野田市立山口東京理科大学大学院工学研究科工学専攻	修士課程2年	チタン金属表面にアナターゼ型酸化チタンを形成する新規合成方法の開発と水質浄化への応用	710,000
愛媛県	2020-2033	前谷 佳奈	女		愛媛大学大学院理工学研究科数理物質科学専攻地球進化学コース	博士前期課程2年	豊後水道の底入り潮の発生メカニズムの解明	650,000
福岡県	2020-2039	加藤 博久			九州工業大学大学院工学専攻先端機能システム工学領域	博士後期課程3年	1軸制御型セフルベアリングモータを用いた極低温用遠心ポンプの開発	730,000
	2020-2002	北澤 直樹			九州大学マス・フォア・インダストリ研究所	学術研究員	低次元空間への可微分写像の構成を介した一般次元多様体の大域的な幾何学と諸科学技術への応用可能性	370,000
	2020-2001	塩満 大祐			九州大学大学院工学府海洋システム工学専攻	博士後期課程3年	外圧を受けるリング補強円筒殻の高精度な最終強度推定式の開発と革新的構造様式の提案	880,000
	2020-2038	BETTY LALA	女	インド	九州大学大学院総合理工学府環境エネルギー工学専攻	博士後期課程3年	インドの酷暑地域における小学校の室内熱環境及び生徒の熱中症リスクの実態解明と緩和策提案	700,000
	2020-2032	坂田 隼矢任			久留米工業大学大学院工学部	修士課程1年	久留米緋 x テクノロジー ～久留米の伝統工芸を影から支える新技術の開発～	200,000

2020 年度化学系総評

化学系選考委員会委員長

科学技術の進歩・発展に伴い化学系分野にはますます様々な新しい動きが見られるようになってきました。昨年度に引き続いて、従来の物理化学・無機化学・有機化学・高分子化学・生化学といった5分野をまたがった境界領域の申請テーマが増えていることに加え、化学と生物の境界領域ならびに医科学分野との関連性が強い研究テーマが増えてきたことが今年度の新しい傾向かと思えます。ここでは従来通りに、化学系の申請全体を大雑把に[物理化学・無機化学分野]と[有機化学・高分子化学・生化学分野]で大括りして、本年度の応募の傾向などを俯瞰することにします。

[物理化学・無機化学分野]

化学分野全体の中で、物理化学や無機化学分野への申請件数が少しずつ少なくなっている傾向にありますので、もっと多くの申請を期待しています。その一方で、今回申請された研究テーマや内容に、若手研究者らしく斬新な発想に基づいたオリジナリティの高い申請や新しいことに果敢にチャレンジしようとする申請が多く見受けられたことは大変うれしい傾向といえます。また、新規化合物や材料の合成をテーマとしている場合も、単なる新規分子の合成を目的としている研究はほとんど無く、無機-有機ハイブリッドや、タンパク質との複合体、あるいは弱い相互作用に基づく超分子形成を伴っている場合が多かったことは時代の変遷を強く感じさせられました。このように新規性が高く多様な内容の申請が増えたのは望ましいことではありますが、物理化学や無機化学分野の基礎的な研究に焦点を絞った申請、地球化学や環境化学分野など、陽の当たりにくい分野からの申請件数が特に少なくなっている傾向は残念に思います。

一方、申請書の研究計画や内容については魅力的で甲乙つけがたいものが多く、採否の結果を分けたのは紙一重の差でした。このように非常にアクティブで、意欲を感じる申請も多く見られた反面、残念であったことは1年間の研究計画とはいえ、あまりに研究目的の範囲が狭い計画が散見されたことです。特定の目的のための特定の物質のみを研究テーマとするのではなく、今後の広がりを感じられるような研究計画が求められているものと考えてください。また、基礎研究を重視している助成制度とはいえ、この研究によってどのようなことが期待されるのかが読んだ人にとってあまりよく分からない申請も少なからず見られました。そのような場合は低評価になることはやむを得ません。やはり十分に推敲された文章と研究内容には説得力があります。

[有機化学・高分子化学・生化学分野]

有機化学・高分子化学の分子変換や機能材料を志向する分野では、これまで認識されていたものとは異なる構造や挙動、それに関わる物性を対象と捉える多彩な申請があり、胸躍る審査でした。エネルギーや材料が抱える問題への化学者としての地道な努力への姿勢は引き継がれていることが感じ取れました。一方、少なからぬ数の申請については、精緻な構成となっているものの「現行の仕事の連続的な、そのままの延長・拡大の計画」のように見えて、少々方向づけがずれかけているという印象を持ちました。

研究者を目指す若い皆さんが、所属する研究室全体の研究の方針・方向付けの中である部分を担当して仕事をしていくのは当然の姿といえます。研究対象を深く掘り下げたり、範囲を広げたり、また、他の分担者の仕事の進め方を疑似体験として、専門性・特殊性の高いところを極めていながら研鑽を積むのは全く自然なことです。そういう活動の中で、時に、おやっと思うような意外なことにいくつか気づくことがあると思います。それは、グループの方向とは違うし周囲もあまり興味を持たない、あるいは「今は扱えないな」という雰囲気だけれども、自分自身の経験や感性に基づく「何か気になって」追究してみたい。そういうことについて申請してほしいと思います。検討したことが結果的に的外れだったということでも仕方がないのです。そのようなリスクを取ることに試みへの支援が、本助成の一つの大きな特長だと思っています。読む人が想像力を働かせるような、そういう感性に素直な自然体の申請文書が多くなるとよいなと思いました。

有機化学・生化学の分野では、ここ数年共通した傾向として、伝統的な反応開発、天然物の全合成等のテーマは漸減傾向にあります。しかし、効果的な合成法の開発に基づく標的化合物の合成と構造活性相関の解明は、依然として主要なテーマであります。また、化学と生物の境界領域にあるケミカルバイオロジーに基づいて創薬シーズとなる生物活性化合物を探索する研究は増加傾向にあります。一方、近年の医科学の進歩に対応して、生体の機能制御や生命現象の分子レベルでの解明に基づく機能性分子の開拓など、医科学関連のテーマが増えています。しかし、上記のテーマとは別に、最近のSDGsに対応した地球環境の保全に貢献すると考えられる地味な研究戦略に基づく申請も散見されました。今後本研究助成がそのような未来志向型の反応開発の進歩にも貢献することが期待されます。

高分子化学の分野では、高分子物性の基礎的解明を目指した申請から低環境負荷材料、自己組織化材料、バイオセンシング材料など広い分野の高分子材料に関する研究申請がありました。いずれも入念に計画された研究テーマであり、チャレンジングで萌芽的課題が目立った印象があります。このような発展段階の研究申請では、ゴールを明確に設定した研究計画を設定することが重要であります。

〔化学系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
北海道	2020-3029	今 利真			北見工業大学大学院工学研究科生産基盤工学専攻	博士後期課程3年	α -ケトアミド類への直接的不斉アルドール反応に有効なトリペプチド触媒の開発	510,000
宮城県	2020-3022	古田 未有	女		東北大学大学院薬学研究科	助教	連続第四級不斉炭素中心構築法の開発と生物活性ハイブリッド型中分子合成への応用	700,000
群馬県	2020-3034	筒場 豊和			群馬大学大学院理工学府分子科学部門	研究員	反応性バイオベースポリエステル合成と高分子反応への展開	700,000
埼玉県	2020-3003	藤木 勝将			理化学研究所田中生体機能合成化学研究室	協力研究員	有機トリフルオロボレート触媒によるシリル保護マンノースの位置選択的脱シリル化反応の開発	600,000
千葉県	2020-3018	磯辺 篤			千葉大学大学院融合理工学府先進理化学専攻共生応用化学コース	博士前期課程2年	半導体性超分子ポリマーの電子物性におけるトポロジーの効果	600,000
	2020-3005	辻 優依	女		東京大学大学院理学系研究科化学専攻	博士後期課程2年	空間不均一性を排除した高均一ゲルにおける変形時の構造およびダイナミクス	590,000
	2020-3021	Wong Kuo Hong		ブルネイ	東京大学大気海洋研究所海洋無機化学	特任研究員	海水中の異なる存在状態の銅の植物プランクトンによる取り込み過程の解明	840,000
東京都	2020-3024	小澤 真由	女		東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科応用生命科学専攻	博士後期課程1年	給餌実験による日本沿岸の二枚貝における新奇下痢性貝毒アザスピロ酸の蓄積および代謝物に関する研究	660,000
	2020-3001	風間 裕行			東京工業大学大学院物質理工学院応用化学系原子核工学コース	博士後期課程3年	酸性水溶液系からの予期せぬ無水プロトン付加物生成機構の解明	680,000
	2020-3037	岡田 隼輔			東京農工大学大学院工学府応用化学専攻	博士後期課程1年	蛋白質フォールディング中間構造に着目したフォールディング促進剤の開発	700,000
	2020-3023	碓井 瑠智雄			成蹊大学大学院理工学研究科理工学専攻	博士後期課程1年	糖鎖の多様性に準じた結合優位性を有する糖結合タンパク質の同定	600,000
	2020-3013	須貝 智也			中央大学理工学部応用化学科	助教	抗腫瘍活性海洋天然物の誘導体合成を指向した効率的全合成研究	700,000
神奈川県	2020-3027	松本 昭源			横浜国立大学大学院環境情報学府人工環境専攻	博士後期課程1年	高速化学気相析出を利用した相分離構造を有する固体イオニクスの創製	600,000
	2020-3017	大曲 仁美	女		青山学院大学理工学部化学・生命科学科	助教	強発光を示す低融点型ランタニド三元錯体の開発とCPL特性	800,000
	2020-3006	鶴川 幸音	女		麻布大学大学院獣医学研究科動物応用科学専攻	博士前期課程2年	新規物質pestalotioquinol Aの細胞保護機構の解析と薬剤としての応用に向けた基礎的研究	600,000
山梨県	2020-3026	久保田 恒喜			山梨大学大学院医工農学総合教育部工学専攻エネルギー物質科学コース	博士課程3年	ゼオライト系蛍光体の特性評価および発光メカニズム解明	700,000
	2020-3015	岩本 莉奈	女		山梨大学大学院医工農学総合教育部生命環境学専攻	修士課程2年	がん免疫療法用免疫チェックポイント阻害への応用を目指した新規PD-L1・PD-1相互作用阻害剤の開発	700,000
石川県	2020-3008	楊 露	女	中国	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科創薬科学専攻	博士後期課程3年	広域アジア地域における大気中微小粒子状物質の組成特徴及び健康リスク評価に関する研究	790,000
岐阜県	2020-3004	武田 充未	女		岐阜薬科大学大学院薬学研究科薬科学専攻	博士前期課程2年	可視光とヨウ素の協働作用を利用したカルボニル化合物の直接 α -アミノ化反応の開発	700,000
愛知県	2020-3010	前田 真衣	女		名古屋工業大学大学院工学研究科生命・応用化学専攻	博士後期課程2年	部分的光可塑性と加熱延伸による高分子フィルムの凹凸構造形成	700,000
	2020-3011	菊池 友宏			名古屋大学大学院創薬科学研究科基盤創薬学専攻	博士後期課程1年	嵩高い置換基どうしを内側に向ける新奇らせん性環状エキソジエン骨格の合成	790,000
滋賀県	2020-3028	浦川 一樹			立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構	研究教員（助教）	非平面型 π 電子系イオンの合成と集合化を基盤とした電子・光機能触媒・材料への展開	600,000

〔化学系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
京都府	2020-3002	金 東昱		韓国	京都大学大学院工学研究科高分子化学専攻	博士後期課程3年	両イオン性鎖とイオン性鎖からなるジブロックコポリマーの合成とその複合体形成および刺激応答性	700,000
	2020-3020	金 穂香	女	朝鮮	京都大学大学院理学研究科化学専攻	博士後期課程2年	光受容タンパク質PYPと下流分子の相互作用に関する分子論的研究：種の違いを超えた新たな分子メカニズム	800,000
大阪府	2020-3012	和泉 彩香	女		大阪大学大学院工学研究科応用化学専攻	博士後期課程3年	熱活性化遅延蛍光および円偏光発光を示すπ共役マクロサイクルの創製	700,000
	2020-3031	山田 真希人			大阪大学大学院薬学研究科	博士後期課程2年	連続照射型マイクロ波を用いた環境低負荷型反応の開発と天然由来非天然物創成への応用	800,000
	2020-3009	徐 琳琳	女	中国	大阪大学大学院理学研究科高分子科学	博士後期課程2年	連鎖制御両親媒性高分子の合成と会合挙動	790,000
	2020-3025	錦部 健人			大阪市立大学大学院理学研究科物質分子系専攻	博士後期課程2年	海洋汚損生物に対して忌避作用を示す天然物を模倣した、環境にやさしい船底防汚剤の開発	840,000
	2020-3019	太田 早紀	女		関西大学大学院理工学研究科総合理工学専攻	博士後期課程2年	液晶性エポキシ樹脂の配列構造と自由体積の相関性の解明-複合材料の高熱伝導化メカニズムの理解-	480,000
	2020-3036	林 周平			近畿大学大学院総合理工学研究科理学専攻	博士前期課程2年	両極合成とチオラートアニオンの反応性に着目した有機イオウ化合物の新規合成法の開発	800,000
兵庫県	2020-3014	工藤 久志			神戸大学人間発達環境学研究科	学術研究員	タイタンの氷地殻環境を模擬したクラスレートハイドレートの生成に伴うメタンの同位体分別の調査	700,000
	2020-3007	青木 誠	女		神戸大学大学院海事科学研究科	助教	海流MHD発電中の海水電気分解反応に磁場・流速が及ぼす影響の解明	880,000
	2020-3035	伊藤 舞夕	女		神戸大学大学院工学研究科応用化学専攻	博士前期課程2年	有機スズ化合物を用いた可視光レドックス触媒反応の開発	470,000
広島県	2020-3032	新田 菜摘	女		広島大学大学院理学研究科化学専攻	博士後期課程1年	自己集合カプセルとゲスト分子の分子認識により生じる分岐型超分子ポリマーを利用した新奇機能性材料の開発	600,000
愛媛県	2020-3033	瀧本 和誉			愛媛大学大学院理工学研究科環境機能科学専攻分子科学講座	博士後期課程2年	D-アミノ酸の迅速追跡を目指した発光性キラルイリジウム錯体の開発	800,000
高知県	2020-3030	関田 慎也			高知大学大学院総合人間自然科学研究科応用自然科学専攻	博士後期課程2年	高速・高感度細菌検出への利用を指向した蛍光スイッチング型ナノエマルジョンの開発	780,000
長崎県	2020-3038	高木 皇遥			長崎大学大学院工学研究科グリーンシステム創成科学専攻	博士課程5年	可視光応答型アリアルホウ素置換基を有するジピリナトイリジウム(II)錯体の二酸化炭素光還元反応	700,000
沖縄県	2020-3016	遠藤 克己			琉球大学大学院理学部理工学研究科海洋自然科学専攻	博士前期課程2年	アルデヒドのα位での極性転換を経由する求核的フッ素化剤との不斉フッ素化反応の開発	800,000

2020 年度生物系総評

生物系選考委員会委員長

生物系の場合、共通して生命現象を対象としていますが、アプローチが多岐にわたり、しかもそれぞれが高度に専門化してきており、さらに申請件数が極めて多数のために、採択研究が特定の分野に偏ることがないように、分野を分けて審査を行なっています。

生理・発生・分子・生化・遺伝などの分野

今回も多く申請をいただきました。いままで以上に広い範囲の分野からの応募をいただきました。毎年のことですが、生命を生み出した根幹を解明したいとの気持ちに溢れた申請があることは嬉しいことです。そのような気持ちを持ち続けている推薦者の溢れる思いに、応募者の若さが相乗的な効果を促しているのではないのでしょうか。内容も基礎研究における進化や行動など古くからの問題に取り組む内容から、環境、医療健康、農学、新しい測定方法の確立といった応用まで広がっていると感じました。

テーマ設定で、生物の環境適応や動物の運動能力といった問題に最新の技術を駆使して切り込むといった内容に魅力を感じるものが多くありました。複数のパートナー分子について変異体を作成し、複合体の変化から機能をさぐるという正攻法の研究内容でも、さまざまな手法や情報を駆使し、現代的なアプローチを多く組み入れられたものが光りました。緻密な研究には好感がもてて、研究費が多く必要となること、最新の機器の利用が必要であることがよく理解でき、本助成がその一助となればと思うばかりです。

一方、幾つかの申請内容で気になった点を述べたいと思います。この 2-3 年の傾向ですが、経費がかかる、あるいは xx 実験をやるためであるという流れの申請が少なからず見られました。ある技術を駆使すれば、そこから何らかのデータが得られることが期待でき、その生き物、細胞について何らかの面白いことを見いだされることが期待されるといった内容です。まだその端緒も見えない段階で、経費がかかるために本助成申請をするというのでは、残念ながら妥当性が伝わりません。学生であっても、本申請は若手研究者個人によるオリジナリティのある研究内容に与えられるものです。申請されるにあたっては、一人一人が本助成を受ける妥当性、正当性をぜひ示してほしいと感じます。何を知りたいのかを自身吟味をして、そのうえでどのようにしたらそれを知ることができるのか、どこまで本質的な部分に迫れるのかをぜひ示してください。そこで他の方とちがったオリジナリティが発揮されるでしょうし、独自のアプローチも示せると思われます。

相分離など、生命をつくる物質の物性に注目する申請が増えたことは最近の特徴です。バクテリアから人間まで生命の透徹した論理があり、それを基盤に、人に至る階層性があります。まだ生命科学が進展していない時代に生み出された概念や区画・分類などを、再度

見直す価値があるのかもしれませんが。化学反応の素過程に加えて、力学的に応答する（たとえば張力、接着）の場としての「生命」、さらに進化という概念やプロセスをあぶり出してみるのも面白いかもしれません。

すでに科学研究費等をとられていたり、種々の学会発表を重ねた研究者の方からも応募を頂いておりますが、単にその路線での研究を継続するため、踏襲するといった申請である場合には、評価が低くなることは申し添えたいと思います。大学院生の方にも共通することですが、新規性に富み、黎明期にあたる研究申請をこれからも尊重していきたいと考えております。

分類・生態・農・水産などの分野

本年度も、当該生物分野の応募には、例年と同様に学術的に興味のある研究テーマを多く申請いただきました。申請書類からも、本助成制度の支援対象である若手研究者が活発に研究している様子が強く伝わり、非常に頼もしく思いました。いずれも質の高い研究に関する申請で、選考に際しては選考委員全員が非常に悩みました。

本年度の申請で選考委員の多くが感じたのは、微生物-昆虫-植物に関連する生物間相互作用に関わる研究が多くなったことでした。昆虫類は、陸上生態系の中では、極めて多様であり、その要因としては、植物との相互作用や共進化によるものが重要であると言われてきました。最近では、昆虫類が、植物を利用する場合などに、微生物の力を利用していることが知られるようになり、その微生物との相互作用や共進化による多様性についても盛んに研究されるようになってきていることが、これらの提案課題からわかりました。

また、数年前より次世代シーケンサーを用いた研究計画が増加しましたが、その中には研究内容自体よりも研究機器の目新しさを強調しているものが多くみられました。しかし、年を追う毎にこれらの新しい遺伝解析機器を適切に用いる研究が増加し、単に目新しい技術を売り物にするような申請がなくなり、純粹に遺伝子解析を研究の1つのツールとして、より高度な研究を推し進める視点が出てきたことは、大変に喜ばしいことです。

特に、さまざまな遺伝子解析技術の発展により、これまで不可能とされていた微生物の探索や系統関係の解析などをできるようになり、微生物との相互作用研究に強力な武器となっていることがうかがえます。また、環境 DNA の研究についても、次世代シーケンサーを用いて環境中にどのような生物が存在するかを調べるだけでなく、複数種の分布および遺伝的多様性の同時検出を行う研究計画が提出されるようになってきています。生物多様性についても、市民科学者（シチズン・サイエンティスト）からの SNS を活用した画像付き情報を収集し、従来の手法では不可能であった研究に挑戦する申請書も提出され、興味深く思いました。しかし、審査委員一同は、そうした新たな解析技術の発展の一方で、従来の記載分類学的な課題に陽が当たらなくなっている現実も理解しており、このような地道で、探索的な研究への支援も大切と認識しています。ただし、伝統的な生物学（例えば分類学や形態学など）の分野の中でも、視点に新鮮さや注目に値する内容が重要となり

ます。

採択に至った研究は、いずれも研究の視点がユニークであり、研究計画もしっかりしていました。例えば、動物の行動に関しては工学技術で強力なデータ収集を行うほか、生態学と遺伝学の融合的な研究の実施など、意欲的に研究分野の境界を乗り越えようとする内容も印象的でした。また、それらの申請内容は、いずれも実施計画と支出計画の対応関係も明確な内容となっていました。

その一方で、採択に至らなかった申請については、その傾向を以下にまとめますので、来年度以降の申請の参考にしていただければと思います。

若い研究者の申請が多くなっていることは大変喜ばしいことですが、研究経験の少ない学士、修士課程の学生の場合、申請者独自の発想ではなく、所属する研究室で実施している研究の一部を担うと思われる研究テーマ設定や研究実施計画が見られました。そのため、当人の研究者としての資質を評価する情報が限られているために、せっかく素晴らしい研究計画を出されても、実際に本人がどこまでできるかの判定の難しい場合がありました。

また、研究の要点をつかんでわかりやすく書かれている研究計画は審査しやすく、しかも研究内容の優れているものが多かった一方、あれもこれもと盛りだくさんに詰め込まれている研究計画は要点がつかみにくいものが多く、研究の目的自体も不明瞭である傾向が見られました。自分が特に訴えたい内容を中心に、メリハリをつけた研究計画書作成が重要です。

本年度の申請より、研究対象が海外産の生物である場合、生物多様性条約の ABS (Access and Benefit-Sharing) に関わる法令遵守の必要があることを、注意喚起させていただきました。しかし、申請の中には、国際条約や法令順守の点で気になる申請書が散見されました。国外で生物を調査する場合、現地研究者と連携するだけでは不十分であり、国内で実験を行う際にも、研究に用いる生物種が外国由来の場合には、ABS をクリアできているかが問題となります。従来は絶滅危惧種やワシントン条約掲載生物に注意していれば問題が生じなかったのですが、ABS を採択する国が多数となったため、事前に ABS に関わる手続き（原産国政府機関と覚え書きなど）を踏まえての申請をお願いします。特に、現地研究者も ABS 国内法に疎い場合があることがありますので、注意してください。

〔生物系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
北海道	2020-4102	古巻 史穂	女		北海道大学大学院環境科学院生物圏科学専攻水圏生物学コース	博士前期課程2年	北海道周辺海域におけるナガスクジラの分布と餌生物環境の関係	510,000
	2020-4104	池田 龍之介			北海道大学大学院水産科学院海洋生物資源科学科	修士課程2年	ステレオ画像計測による魚体長計測手法の構築を目的とした、バイオロギングによる養殖マダイの行動計測	610,000
	2020-4098	千葉 拓也			北海道大学大学院生命科学学院	博士後期課程1年	静電場に応答したCaenorhabditis elegans耐性幼虫の跳躍機構の解明	780,000
	2020-5012	水野 歩	女		北海道大学大学院生命科学学院	博士後期課程1年	カエデチョウ科鳥類の食性進化に関わる視覚特性の解明	750,000
	2020-4088	川西 亮太			北海道大学大学院地球環境科学研究院	特任助教	太平洋におけるトビウオ寄生性等脚類の多様性と共進化の解明	920,000
	2020-4107	上仲 恵美	女		北海道大学大学院農学院	博士後期課程2年	E3ユビキチンリガーゼの過剰発現が筋原線維のミオシン分子の置換に及ぼす影響の検討	510,000
	2020-4077	能瀬 晴菜	女		北海道大学大学院農学院環境資源学専攻	修士課程2年	北海道および青森県北部に生息するイワハママシ類の分類学的再検討	630,000
	2020-4097	西 航司			酪農学園大学大学院獣医学専攻獣医学研究科	博士課程4年	マイコプラズマのウシ関節内における巧みな免疫回避能力とその発現調節機構	580,000
青森県	2020-5013	木村 彰宏			岩手大学大学院連合農学研究科地域環境創生学専攻(配属:弘前大学)	博士課程2年	温帯林における氷期後の二次的接触がもたらす多様な進化現象の解明:寒冷地と温暖地の比較	740,000
	2020-5025	甲斐 龍之介			弘前大学大学院農学生命科学研究科	修士課程2年	白神山地に生息する陸生プラナリアの分類と記載:本州最後の秘境に潜む未記載種を追う	700,000
	2020-5033	佐々木 未悠	女		弘前大学大学院農学生命科学研究科農学生命科学専攻生物学コース	修士課程2年	樹洞営巣性鳥類の営巣環境競争における闘争行動への渡り性の影響の検証	790,000
宮城県	2020-4009	小林 記緒			東北大学医学系研究科情報遺伝学分野	助教	ヒトES細胞の分化転換による胎盤発生のエピゲノム制御機構	800,000
	2020-5046	叶 彬		中国	東北大学大学院生命科学研究所生態発生適応科学専攻	博士後期課程3年	人間活動が東アジアにおけるゲジ科動物の分散に与えた影響	600,000
	2020-4037	根本 和也			東北大学大学院薬学研究科	博士後期課程1年	ショウジョウバエの器官運命の転換現象におけるインシュリン様ペプチドの分子機能	700,000
山形県	2020-5030	中曽根 大輝			山形大学大学院理工学研究科理学専攻	博士前期課程2年	植食性甲虫の寄主選択に作用する条件付けの度合いに寄主の存在量に応じた集団間変異は存在するか?	420,000
福島県	2020-4093	永井 友朗			福島県立医科大学医学部生化学講座	助教	細胞のcollective invasionにおけるintermediate EMTの重要性	780,000
茨城県	2020-5002	小林 優介			茨城大学理工学研究科理学野	助教	非光合成真核細胞による細胞内農業:共生藻への肥料供給に注目した研究	800,000
	2020-5034	土山 紘平			筑波大学大学院生命環境科学研究科持続環境学専攻	博士後期課程2年	鉱山跡地に自生する遷移後期種アオキの重金属耐性機構および内生菌の新規機能の解明	690,000
	2020-4110	水野 史博			筑波大学大学院地球進化科学専攻	博士後期課程3年	古鯨類の陸棲非適応度の推定と後肢機能の変遷の解明	300,000
	2020-4048	小口 晃平			産業技術総合研究所生物プロセス研究部門	博士研究員	群体性ヒドロ虫:クダクラゲにおける群体組織化機構の解明	710,000
	2020-5009	小林 卓也			森林総合研究所林業研究部門森林植生研究領域	特別研究員	枯死材性昆虫の多様性維持における木材腐朽菌の役割:野外操作実験による検証	700,000
	2020-4025	仲村 康秀			国立科学博物館植物研究部	協力研究員	リザリア類(単細胞動物プランクトン)と端脚類(甲殻類)との共生現象について、その生態学的意義の解明	790,000
栃木県	2020-4050	玉木 峻			帝京大学理工学部バイオサイエンス学科	博士研究員	微細藻類ユーグレナの光走性における眼点の生理的意義の解明	650,000

〔生物系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
群馬県	2020-4020	常岡 明加	女		群馬大学大学院医学部医学系研究科	博士課程2年	エビジェネティック修飾によるドーパミン経路の制御が肥満や依存症発症に与える影響の解明	800,000
埼玉県	2020-4062	結川 達也			埼玉大学大学院理工学研究科生命科学系専攻	博士後期課程3年	脊椎動物胚での脊髄原基の後方伸長におけるOct4型転写因子Pou5f3の役割	740,000
	2020-4074	森下 雅大			埼玉大学大学院理工学研究科生命科学系専攻	博士後期課程3年	雄マウスに特有な神経回路の形成機構と生理機能の解明	760,000
	2020-5015	三上 莉穂	女		埼玉工業大学大学院工学研究科生命環境化学専攻	博士前期課程2年	花の色と香りに関わる遺伝子における機能多面性の解析	800,000
千葉県	2020-5047	谷中 稔侑	女		千葉大学大学院園芸学研究科環境園芸学専攻	修士課程2年	他種の作ったゴールを再利用するヤドカリタマバエの寄主範囲と関わる共生菌の役割に関する研究	650,000
	2020-4030	倉持 昌弘			東京大学	助教	時分割回折X線プリンキングによる線虫の不凍タンパク質動態の検出	750,000
	2020-5044	井上 香鈴	女		東京大学大学院大気海洋研究所理学系研究科生物科学専攻	修士課程2年	オカミミガイ科腹足類における発生様式の変化と陸上進出史の解明	580,000
	2020-4004	宮山 大			東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻	博士後期課程1年	昼夜の照度の違いがアカウミガメのプラスチックゴミ誤飲に及ぼす影響の評価	790,000
	2020-4034	上坂 怜生			東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻	博士後期課程2年	海面からどう飛び立つ？海鳥と波浪の関係を新しい波浪観測手法で明らかにする	930,000
	2020-5045	福田 彩華	女		東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	修士課程2年	脳下垂体自体の光受容を介した体色変化の新規経路の解析	590,000
	2020-4065	田井 優貴			東京理科大学大学院薬学研究科薬科学専攻	博士後期課程1年	新たなアレルギー性疾患の治療法確立に向けたIgE産生制御機構の解明	700,000
	2020-4054	花輪 万智	女		東邦大学大学院理学研究科生物学専攻	博士前期課程1年	伊豆諸島の海鳥の繁殖率・生息海域と餌資源変動の関係—海洋データ同化プロダクト利用によるモデル構築—	790,000
	2020-5026	竹重 志織	女		放送大学大学院文化科学研究科文化科学専攻	修士課程2年	都市環境における人間活動と土地利用が水鳥の移動に与える影響評価	370,000
東京都	2020-4029	Michael Amodu-Bosompem		ガーナ	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医歯学系専攻	博士課程4年	ネッタイシマカのデングウイルス感受性・非感受性を左右する遺伝的構造の解明	500,000
	2020-4063	今泉 健太郎			東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科応用生命科学専攻	博士後期課程2年	クルマエビ類における囲食膜に関する研究とそれを利用した感染症防除法の研究	690,000
	2020-4064	若山 大介			東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科海洋生命資源科学専攻	博士前期課程2年	生殖腺刺激ホルモン受容体の免疫化によるニジマスの性成熟阻害	940,000
	2020-4006	長澤 竜樹			東京工業大学生命理工学院	助教	孵化腺細胞欠損変異体の遺伝子発現解析：胚葉を越えた機能転移はどのようにして起こったか	800,000
	2020-4044	渡邊 菜月	女		東京大学医学系研究科国際保健学専攻生物医化学教室	特別研究員	小胞輸送におけるレトロマー複合体の機能解析	700,000
	2020-4057	井口 聖大			東京大学大学院医学系研究科医科学専攻	修士課程2年	Dual-TCR T細胞の生理学的意義・病理学的役割の解明	790,000
	2020-4049	近藤 興			東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻生命環境科学系	助教	細胞内配置の意義の解明を目指したオルガネラ磁気操作ツールの開発	510,000
	2020-4040	清水 啓介			東京大学大学院農学生命科学研究科	特任研究員	異所的に発現する貝殻基質タンパク質による巻貝の幼殻形成制御機構の解明	700,000
	2020-4043	佐藤 真梨萌	女		東京大学大学院農学生命科学研究科獣医学専攻	博士課程3年	低栄養時に生殖機能を抑制する脳内メカニズムの解明	700,000
2020-4055	黒木 花菜子	女		東京大学大学院薬学研究科薬科学専攻	修士課程2年	シリア解体と細胞周期再エントリーの相互制御メカニズムの解明	750,000	

〔生物系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
東京都	2020-4069	飯野 史織	女		東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	博士課程2年	ミツバチとマルハナバチの採餌行動時に働く脳分子神経機構の比較解析	750,000
	2020-5041	板垣 ひより	女		東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	博士後期課程1年	子囊菌門ビョウタケ目Pyrenopeziza protrusaの感染時の動態と共生機能の解明	450,000
	2020-4046	清水 謙次			東京大学定量生命科学研究所	特任助教	免疫抑制受容体PD-1はT細胞集団の抗原応答性をどのように変化させるか	750,000
	2020-5007	吉野 広軌			東京大学農学生命科学研究科	特定研究員	陸上ワラジムシ亜目の分泌する性フェロモンの探索と種間の性フェロモンの差異の解析	560,000
	2020-5018	栗山 和典			東京農工大学大学院連合農学研究科生物生産科学専攻	博士課程1年	2色咲き品種の花弁組織における自然発生RNA干渉の空間的・時間的制御機構の解明	520,000
	2020-5021	内田 健太郎			東京都立大学大学院理学研究科生命科学専攻	修士課程2年	伊勢湾台風による大規模攪乱後に更新した北八ヶ岳のモミ林の成長動態と空間構造の解析	300,000
	2020-4089	萩原 翠唯那			東京都立大学大学院理学研究科生命科学専攻	博士前期課程2年	昆虫が飛ぶために必要な遺伝子：キイロショウジョウバエを用いたResilin遺伝子の機能解析	560,000
	2020-4011	今泉 研人			慶應義塾大学医学部生理学教室	特任助教	オルガノイド技術を用いた大脳皮質発生におけるサイズスケール機構の解明	800,000
	2020-4060	遅 源	女	中国	順天堂大学医学部医学研究科生化学・細胞機能制御学講座	博士研究員	上皮細胞傷害におけるロイコトリエンB4第二受容体の役割	550,000
	2020-5035	井出 寛人			早稲田大学大学院先進理工学研究科生命医科学専攻	博士前期課程2年	難培養微生物の増殖を制御する異種細胞間コミュニケーションの解明	700,000
	2020-5017	森 千紘	女		帝京大学薬学部薬学科	研究員	同地域に生息する鳴禽類の近縁2種における呼び合い音声の比較研究	680,000
	2020-4090	高島 友弥			東京農業大学大学院農学研究科バイオサイエンス専攻	博士後期課程3年	体外培養モデルを用いた卵子発生能獲得メカニズムの解明	690,000
	2020-5042	平野 侑			東京農業大学大学院農学研究科林学専攻森林生態学研究室	博士前期課程2年	リン欠乏に対する熱帯樹木根系の適応機構：細根由来のリン酸分解酵素活性の多樹種間比較	640,000
	2020-4001	田中 愛海	女		東京薬科大学大学院薬学研究科	博士課程1年	3次元ヒト肺組織モデルを用いたインフルエンザ菌の病原性評価系の構築	700,000
神奈川県	2020-5027	大塚 公貴			横浜国立大学大学院環境情報学府自然環境専攻	博士前期課程2年	枝と生葉が林床の枯死葉分解に与える影響	710,000
	2020-5006	植松 康成			横浜国立大学大学院環境情報学府自然環境専攻生態学プログラム	博士後期課程2年	サクラマスにおける好適種苗の選別方法と評価手法の開発	320,000
	2020-4012	吉川 晟弘			東京大学大学院理学系研究科三崎臨海実験所	特任研究員	深海での最適な相利共生戦略の解明：擬貝形成性イソギンチャク-ヤドカリ共生系を用いた検証	510,000
	2020-4084	波々伯部 夏美	女		東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	博士課程1年	紐形動物における骨片形成過程の解明	750,000
	2020-4015	池永 潤平			東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻	博士課程2年	ヒモムシ類の受精における種認証システムの解明	430,000
	2020-4080	永田 博基			横浜市立大学大学院木原生物学研究所植物エビゲノム科学部門	博士後期課程2年	イネ胚乳発生の多核体-細胞化の移行におけるエビジェネティックな制御機構の解明	640,000
	2020-4108	市川 麗子	女		神奈川大学大学院理学研究科理学専攻	博士後期課程2年	イモリ幼生の外鰓における形態形成機構の解明	630,000
	2020-5014	伊藤 海			鶴見大学歯学部	非常勤講師	食肉類の吻部形態と咬合力の比較機能形態学的関係について	700,000
	2020-4105	喜納 泰斗			日本大学大学院生物資源科学研究科応用生命科学専攻	博士後期課程2年	板鰓類における子宮乳の機能および泌乳機構の解明	690,000

〔生物系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
神奈川県	2020-4058	菅原 舜介			北里大学大学院海洋生命科学研究所海洋生命科学専攻	修士課程2年	マナマコ体腔球の凝集促進因子AjGBCLの機能解明	710,000
	2020-4032	吉竹 悠宇志			明治大学研究・知財戦略機構	法人ポスト・ドクター	リン酸欠乏時における植物の細胞内リサイクル機構(膜脂質転換とオートファジー)の関係性の解明	500,000
	2020-4103	山本 薫	女		横須賀市自然・人文博物館	学芸員	ハマダンゴムシにみられる色斑多型の機能と維持機構	790,000
山梨県	2020-4028	青木 是直			山梨大学ワイン科学研究センター大学院総合研究部	研究員	ブドウ樹内マイクロフローラによるテロワールの形成	530,000
	2020-4026	埴 宗継			山梨大学総合研究部医学域基礎医学系解剖学講座構造生物学教室	特任助教	海中微粒子は潮間帯における平板動物の生態系の代謝に大きく影響するの？	590,000
	2020-4039	安東 丈洋			山梨大学大学院医工農学総合教育部生命環境学専攻	修士課程2年	新規小分子結合ペプチドタグの分子進化工学的スクリーニング探索とバイオイメージング及び光遺伝学への応用	700,000
長野県	2020-4082	押切 春佳	女		信州大学大学院総合医理工学研究科総合理工学専攻	博士課程1年	アシル基転移酵素の分子進化からみるシコニン・アルカニン類縁体多様化メカニズム	800,000
	2020-5011	上木 岳			信州大学大学院総合医理工学研究科総合理工学専攻	博士後期課程1年	4者共生関係をもつクワガタムシ類から紐解く森林共生系による多様性の創出・維持機構	800,000
	2020-5029	角田 智詞			信州大学農学部	助教	作物の網羅的代謝産物評価と節足動物との関係から迫るSDGs達成に向けた農地管理	750,000
	2020-4099	参輪 佳奈	女		筑波大学大学院生命環境科学研究科生物科学専攻	博士前期課程2年	日本の汽水域・海岸におけるコウマクノウキン類の探索と系統分類学的研究	730,000
石川県	2020-4010	関本 愛香	女		金沢大学大学院臨海実験施設自然科学研究科自然システム学専攻	博士前期課程2年	クルマエビの外骨格の石灰化に関与する基質ペプチド(CAP-1)の同定と機能解析	690,000
岐阜県	2020-4076	Yassien Ahmed Yassien Badr		エジプト	岐阜大学岐阜大学応用生物科学部	研究助手	新しい診断技術開発による海洋哺乳類パラボックスウイルス感染症の疫学調査	640,000
	2020-5005	野間 明加里	女		岐阜大学大学院自然科学技術研究科生物生産環境科学専攻	修士課程1年	生息調査と行動調査による淡水生カメ類の包括的な生息環境の解明	650,000
	2020-5043	伊藤 愛	女		岐阜大学大学院自然科学技術研究科生物生産環境科学専攻	修士課程2年	空中花粉のメタゲノム解析における定量性の検討と時空間変動の解析	470,000
	2020-4041	千葉 暁子	女		岐阜大学大学院連合獣医学研究科	博士課程3年	牛血清骨型アルカリフォスファターゼ分画(ALP3)測定のための改良型アガロース電気泳動法の検証	710,000
	2020-4081	Md. Matiur Rahman		バングラデシュ	岐阜大学大学院連合獣医学研究科食品環境衛生学研究室	博士課程3年	牛乳細胞外小胞を用いた牛白血病の新しいモニタリング法の開発	800,000
静岡県	2020-4003	廣瀬 晴香	女		静岡大学理学部生物科学科	研究補佐員	カライワシ類における肝臓構築の多様性に関する比較分子形態学的研究	770,000
	2020-4100	佐藤 楽生			東京大学大学院農学生命科学研究科水圏生物科学専攻	博士課程1年	魚類寄生虫はどうやって宿主を認識しているの？ー魚類寄生虫の発現遺伝子に注目した分子生物学的研究ー	840,000
	2020-4033	久野 友愛	女		東海大学大学院海洋学研究科海洋学専攻	修士課程2年	紀伊半島沖におけるスジイルカの群れごとの採餌機会による食性の変異	590,000
	2020-4066	剣持 瑛行			東海大学大学院生物科学研究科生物科学専攻	博士課程1年	海洋生態系における海産枝角類の生態学的役割の解明ー沖合域に分布する個体群に着目して	580,000
	2020-4091	藤田 智史			国立遺伝学研究所	特任研究員	植物における仕切りのない細胞外空間の区画化を可能にする分子機構	740,000

〔生物系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
愛知県	2020-4061	山下 映			総合研究大学院大学生命科学研究科基礎生物学専攻	博士課程5年	RNA結合タンパク質NFAR2の液-液相分離を介した学習・記憶制御メカニズムの解明	600,000
	2020-5019	丸山 迪代	女		名古屋大学大学院生命農学研究科動物科学専攻	博士後期課程2年	動物が温度から季節を読み取るしくみの解明	700,000
	2020-5028	豊田 有			中部大学創発学術院	研究員	ベニガオザルの連合形成機構の解明：協力行動の進化基盤の探索	750,000
滋賀県	2020-5020	鎌田 一徹			京都大学大学院理学研究科生物科学専攻	博士後期課程1年	オオバギの送粉生態：花序で繁殖する2種のカメムシの関係	450,000
	2020-4007	元村 一基			立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構	研究助教	二種類の細胞から構成される花粉細胞を利用した植物の新奇小胞輸送経路の解析	500,000
京都府	2020-5004	水野 佳緒里	女		京都大学アフリカ地域研究資料センター	特定研究員	発声可塑性を持つアジアゾウにおける鼻息の強さの調整能力	790,000
	2020-4083	小泉 慶次朗			京都大学大学院情報学研究科生物圏情報学	修士課程2年	ジュゴンの個体群における鳴音パターンの地域間比較	730,000
	2020-5038	福谷 和美	女		京都大学大学院人間・環境学研究科環境学専攻自然環境動態論講座	博士後期課程2年	日本産ヒキガエル属における交雑帯を介した種分化機構と遺伝的多様性形成機構の解明	630,000
	2020-4005	斎藤 貴大			京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻	修士課程2年	我が国の沿岸域に遍在する水産無脊椎動物の体液に住み着く新奇病原菌近縁微生物の生態と生理機能の解明	690,000
	2020-4071	義江 健吾			京都大学大学院農学研究科応用生物科学専攻	修士課程2年	飼育条件が人工、天然イセエビの放流後の行動に与える影響と放流後の定着場所の解明	840,000
	2020-4111	釜阪 紘平			京都大学大学院農学研究科応用生命科学専攻	博士後期課程2年	回遊魚類腸管由来細菌による膜小胞を介した新奇選択的タンパク質分泌機構の解明と応用	800,000
	2020-5036	Aye Ko Ko		ミャンマー	京都大学大学院農学研究科森林科学専攻	修士課程1年	ミャンマー産チークの年輪気候学的研究	420,000
	2020-4014	谷吉 和貴			京都大学大学院農学研究科農学専攻	博士後期課程1年	イネの水分生理が変動光下の光合成に与える影響	670,000
	2020-5032	山崎 由理	女		京都大学大学院理学研究科生物科学専攻	修士課程2年	黒潮が運ぶ海流散布植物ハマボウの集団間のコネクティブティの多面的解析	530,000
	2020-5016	清家 多慧	女		京都大学大学院理学研究科生物科学専攻動物学教室	博士後期課程2年	同所的に生息するオナガザル属2種の種間関係から、異種の共存機構を探る	650,000
	2020-4031	村上 達郎			京都府立医科大学大学院医学研究科細胞生理学部門	プロジェクト研究員	ATPを神経伝達物質として用いる、新規チャネル型化学シナプスの全身分布の探求	550,000
	2020-5023	水口 木綿花	女		同志社大学大学院生命科学研究科医工学・医情報学専攻医情報学コース	博士前期課程2年	野生のコウモリの採餌行動から見る最適採餌理論のモデル構築	650,000
大阪府	2020-4068	山田 泰智			大阪市立大学大学院理学研究科生物地球系専攻	博士前期課程2年	ハゼとエビの相利共生における「給餌共生」仮説の検証：摂餌生態の異なるハゼ2種の行動の比較から	850,000
	2020-4051	渡辺 駿一			大阪府立大学大学院生命科学研究科獣医学専攻	博士課程1年	内臓転移腫瘍に対するサイトカイン遺伝子療法の開発	560,000
	2020-4079	木村 和人			大阪府立大学大学院生命環境科学研究科獣医学専攻	博士課程1年	輸血製剤の開発へ向けた血液細胞からのイヌiPS細胞株の樹立および赤血球への分化誘導	650,000
兵庫県	2020-4056	稲辺 宏輔			神戸大学先端バイオ工学研究センター	学術研究員	高活性なシアノバクテリアATP合成酵素取得を目指した変異体ライブラリーの構築	610,000
	2020-4053	面田 彩馨	女		神戸大学大学院保健学研究科パブリックヘルス領域国際感染症対策分野	博士前期課程2年	熱帯熱マラリア原虫・生殖母体の感染赤血球における接着分子の輸送機構の解析	650,000
	2020-5037	伊崎 実那	女		兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科	博士後期課程1年	市民科学はコウノトリを保全できるか？-利用目的別のハビタット解明と持続可能な市民調査へ向けて-	610,000

〔生物系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
兵庫県	2020-4021	柴田 桂太郎			情報通信研究機構未来ICT研究所フロンティア創造総合研究室	研究員	磁気ピンセットを用いた細胞内輸送メカニズムの解明	530,000
奈良県	2020-4095	三藤 清香	女		奈良女子大学大学院人間文化総合科学研究科自然科学専攻	博士後期課程1年	囊舌目ウミウシの行う吐き戻し行動の適応的意義と藻類の進化への影響	650,000
	2020-4045	角谷 美典	女		奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科バイオサイエンス領域	博士後期課程3年	種特異的なサイズを決定する分子機構を明らかにするための新規スクリーニング法の開発と同定	750,000
鳥取県	2020-5003	千葉 駿			鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科農学専攻	博士前期課程1年	鳥取砂丘に出現するカエル類が海浜性昆虫類に与える影響について～蛙糞と胃内容物の分析によるアプローチ～	390,000
島根県	2020-4072	菊樂 香奈	女		島根大学大学院自然科学研究科農生命科学専攻	博士前期課程2年	植物の環境順応における「活性酸素パラドクス」を紐解くトランスクリプトーム解析	780,000
	2020-4073	田中 泰裕			島根大学大学院自然科学研究科農生命科学専攻	博士前期課程2年	植物アスコルビン酸輸送体の同定と機能解析	700,000
岡山県	2020-4052	FERRE Pujol Pilar	女	スペイン	岡山大学生殖補助医療技術教育研究センター	非常勤研究員	革新的な非侵襲的卵子救済方法の確立	500,000
	2020-4106	市川 明日香	女		岡山理科大学大学院理学研究科臨床生命科学専攻	修士課程2年	甘味スイッチの発見 ～味覚変換タンパク質「ミラクリン」の立体構造解析～	750,000
広島県	2020-4086	小出 佑紀			広島大学大学院生物圏科学研究科	博士後期課程3年	広大な生活空間を維持するクロハコフグの実態一採餌場・産卵場・睡眠場の使い分けと配偶システムー	460,000
	2020-5040	佐藤 初			広島大学大学院統合生命科学研究科生物資源科学専攻	博士前期課程1年	掃除魚に擬態するニセクロスジギンボの繁殖生態と擬態機能解明	700,000
	2020-4067	谷口 碧	女		広島大学大学院統合生命科学研究科統合生命科学専攻	修士課程1年	夏眠前の餌料環境の良否によるイカナゴの被食リスクへの影響評価	340,000
	2020-4059	藤井 夏鈴	女		広島大学大学院統合生命科学研究科統合生命科学専攻	博士後期課程1年	ミズクラゲの変態における節形成シグナル因子の同定	680,000
	2020-4109	梅木 雅美	女		広島大学大学院統合生命科学研究科統合生命科学専攻	博士前期課程2年	サンゴとシャコガイ類の共生関係に関する研究	440,000
山口県	2020-4087	羽原 誠			山口大学共同獣医学部	助教(特命)	ER陽性乳がんにおけるプロリン異性化酵素の意義と治療標的としての可能性	500,000
	2020-4047	松屋 純人			山口大学大学院共同獣医学研究科	博士後期課程1年	ほ乳類品種改良に資する倍数化個体創出の基盤構築：マウス4倍体化初期胚の胚発生動態解析	600,000
	2020-5001	辻 冴月	女		山口大学大学院創成科学研究科	学術研究員	複数種の分布と遺伝集団構造の同時解析：環境DNAを用いた効率的解析法の開発と系統地理学への適用	650,000
徳島県	2020-4017	福田 達也			徳島大学大学院医歯薬学研究部薬学域衛生薬学分野	助教	イオントフォレシスを用いた樹状細胞由来エクソソームの皮内送達によるオーダーメイドがん免疫療法の確立	650,000
愛媛県	2020-5010	竹内 久登			愛媛大学南予水産研究センター	特定研究員	病原体感染が魚類の生体物質放出に及ぼす影響の解明	740,000
高知県	2020-4036	島田 雄斗			高知大学大学院総合人間自然科学研究科応用自然科学専攻	博士課程2年	原生生物絨毛虫コルポダにおける温度依存性応答機構の解明	550,000
	2020-4094	瀬沼 和香奈	女		高知大学大学院総合人間自然科学研究科農学専攻	修士課程2年	クオラムセンシング誘導2次代謝物質を介した病原性に必要な青枯病菌細胞間シグナル伝達系の解明	600,000
	2020-4016	溝脇 一輝			高知大学大学院総合人間自然科学研究科理学専攻	修士課程2年	インド洋および西部太平洋アシロ属魚類の分類学的研究	310,000

〔生物系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
高知県	2020-4085	芦田 泉香子	女		高知大学大学院総合人間自然科学研究科理学専攻理学コース生物科学分野	修士課程2年	アカウミガメ孵化幼体のフレンジー期の代謝に関する生理学的研究	740,000
福岡県	2020-5024	上森 教慈			九州大学大学院生物資源環境科学府環境農学専攻森林環境科学コース	修士課程2年	九州の森林における標高傾度にそった有剣ハチ類の遺伝的多様性の変化	590,000
	2020-5031	久末 遊			九州大学大学院生物資源環境科学府資源生物科学専攻	博士後期課程1年	カプトバチ亜科の生活史とその特異な形態の適応的意義の解明	800,000
	2020-5039	井上 翔太			九州大学大学院生物資源環境科学府資源生物科学専攻昆虫学分野	博士後期課程1年	アリヅカムシ亜科がもつ小顎肢の機能解明	750,000
	2020-4019	丹生谷 颯人			九州大学大学院生物資源環境科学府生命機能科学専攻	博士後期課程1年	魚類培養細胞におけるオメガ3高度不飽和脂肪酸の生合成経路と生理機能の解明	610,000
	2020-4078	上野 弘人			九州大学大学院地球社会統合科学府地球社会統合科学専攻	博士後期課程2年	海洋での海浜性昆虫の“浮遊分散”による分布拡大仮説の提唱および検証	890,000
	2020-4002	鶴田 朗人			九州大学薬学研究院薬剤学分野	特任助教	mRNAアセチル化によるWobble塩基対安定化を介したグリオプラストーム幹細胞性維持機構の解明	700,000
	長崎県	2020-4018	佐々木 由香	女		長崎大学大学院医歯薬学総合研究科分子標的医学分野	特任研究員	細胞内へのポリ(ADP-リボース)の集積が誘導する細胞死誘導機序の解析
2020-4024		田尻 晃太			長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科	博士前期課程1年	干潟に生息するカニの各種行動に対する抗うつ剤の影響	640,000
2020-4013		山手 佑太			長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科環境海洋資源学専攻	博士後期課程1年	ヒョウモンダコが保有する毒の役割と体内配分戦略	740,000
2020-4101		松田 悠平			長崎大学大学院水産環境科学総合研究科	博士前期課程2年	ノコギリモクの放卵周期の解明	630,000
2020-4042		石崎 隆弘			長崎大学熱帯医学研究所原虫学分野	助教	マラリア原虫のタンパク質小胞輸送先を決定づける原虫側分子の探索	550,000
熊本県	2020-4023	福田 博之			熊本大学大学院医学教育部医学専攻	博士課程4年	ジカウイルスによる宿主RNAの修飾制御機構とその意義の解明	500,000
	2020-4070	河原 あい	女		熊本県立大学大学院環境共生学研究科環境共生学専攻	博士後期課程2年	発酵食品の新たな機能性や保存性を解明する：乳酸菌の抗菌物質生産機構からのアプローチ	700,000
	2020-4096	古賀 碧	女		崇城大学大学院生物生命学部応用生命科学専攻	博士後期課程2年	海産性光合成細菌のクルマエビ養殖における病害抑制・成長促進効果の研究	560,000
宮崎県	2020-4027	塩田 拓也			宮崎大学キャリアマネジメント推進機構テニユアトラック推進室	テニユアトラック准教授	グラム陰性菌外膜に存在するβバレル型膜タンパク質輸送ゾーンの形成機構および、その生理的意義の解析	550,000
	2020-4008	神田 卓弥			宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科獣医学専攻	博士課程4年	Mycoplasma bovisの接着因子が病態に及ぼす影響	600,000
	2020-4092	藤川 昂			宮崎大学大学院農学工学総合研究科	博士課程2年	発電菌におけるCRISPR/Casを用いたゲノム編集技術の確立	700,000
沖縄県	2020-5008	SOONG GIUN YEE	女	マレーシア	琉球大学大学院理工学研究科海洋環境学専攻	博士後期課程3年	アデヤカイロウミウシ属の系統分類および生態に関する研究	650,000
	2020-4075	宇江城 蘭	女		琉球大学大学院理工学研究科海洋自然科学専攻	博士前期課程2年	オキナワモズクの養殖業発展に向けた共存細菌群の解析	570,000

2020 年度複合系総評

複合系選考委員会委員長

複合系は、さまざまな研究分野を含むため、代表的な研究分野によってテーマを分類し、それぞれの分野の専門に近い委員が分担して審査を行います。残念ながら、テーマが広いので、同じ年度に、全分野の研究を採択することができません。よい研究であれば、推敲を行い繰り返し申請していただくことで、必ず採択されると思います。以下に分野別の総評を記します。

生物分野

今年度の生物分野では、評価者の知識や想像力を超える発想豊かな研究計画が複数ありました。それらのほとんどで今後の研究の発展が予想でき、中には新しい研究分野を興す可能性の感じられるものもありました。一方、分野が多岐にわたる複合系では、専門の異なる人にもわかりやすい研究計画の説明が必要ですが、そうした配慮に欠けている計画書もいくつかありました。それらに対しては、的確な評価が難しいという問題があります。この点は、十分に配慮して研究計画書をまとめられることを希望します。

また、研究計画は見事で魅力的でも、申請者の研究能力の記述が不十分なために、研究計画のどこまで実現可能か判定の困難なケースもありました。特に、研究経歴の短い修士課程院生に散見されましたので、その辺への配慮が求められます。

化学分野

複合系の申請の中で、化学に関わるもの、化学色の強いものは、約 1/7 を占めています。それらの申請書は、全体に質が高く、丁寧に書かれていて、若い研究者が助成金申請に強い意欲をもっていることがうかがわれます。申請されたテーマをキーワード別に分けると、1. 各種医薬の開発、2. 食品中の有用成分の究明、3. 生体機能制御因子の作用機序等について、に分類されます。1 については、研究室の大きなプロジェクトの限定された課題に取り組むという申請も複数あり、この場合、研究への申請者個人の寄与率が読み取りにくい、という問題点があります。2 については、取り上げる食材の種類よりも、取り組み方に工夫がみられるものに高い評価点をつけました。3 は、1 と同様大きなテーマを固めていくタイプのもので多く、研究歴が浅い研究者には荷が重いように見えます。いずれの場合でも、個性ある申請書を作成することが重要で、既存の流れを良く咀嚼し、その上に、自分流の研究の進め方を提示するよう、努めてほしいと思います。

人間科学分野

研究内容が高度になっており、一昔前のように、「ただ測る」という申請はきわめて少なくなりました。しかし、まだ、「細胞」を生命の単位として理論づけて、「運動」（＝動物、そして人間にとってきわめて本質的で重要な生きるための「刺激」＝「活動」）を研究する立ち位置での応募がないのは、残念です。多細胞動物であるヒトは、生きてゆくために必要な機能を、異なる組織を分化させているので、運動の研究もまた骨格筋、内臓、脂肪組織、脳などに分けて研究するのが当たり前であるとする考え方が主流ですが、この視点は、実は病気を治す視点であり、「運動する身体」を分けているうちには、実際に運動する人たちへの有効なプログラムを提供することはできません。しかし、この視点での研究もきわめて少ない。研究方法として用いる要素還元的な手法を、どのように一個体の（一人の人間）のQOLの向上につなげることができるのかは、常に意識的に考えるべきだと思います。生命の単位が細胞であり、赤血球を除いてそれらが接着性であり、一個の細胞としてダイナミックに動くシステムをもち、エネルギー産生とも連動しています。人を対象に行う運動生理学の基本が、細胞でも当てはまります。その両研究対象を扱ってはじめて理解するのではなく、自ら生きている自身を科学の目でみる視点を研究や教育の中になんとか入れ込むことができなんでしょうか。ユニークな研究に果敢に挑戦する研究がありますが、さらに上述の見方を加えて欲しい。研究費の枠組を変えることで、統合的であり、なおかつ先端的な方法を内包するような研究を推進できれば、研究助成の枠組によって社会変革の道を生み出してゆくことができると思います。時代の変換期である現在、若い研究者に対して、そのような大きな見方と精緻な見方を両立させるための研究の成果についての展望を書いてもらうようにしたらどうでしょうか。現代社会の問題に対して果敢に方向性を作ってきた笹川科学研究助成へ申請してくる研究者には、それが可能であるように思います。複合系だからこそ期待できると思います。

看護分野

今年度は質の高い研究が多く見受けられました。いずれも研究計画書の完成度は高く、どの研究も採択の可能性がありました。とくに今回の応募内容は、動物実験による基礎研究が複数あり、どれも研究的価値の高いものです。一方で、人間の生活行動の観察研究も複数みられましたが、それらの研究の視点は良いものの、研究計画の完成度の低さから採択に至らなかったものが多かったことは残念でした。今後の申請に期待されるものとして、AIやIoTなどの進歩に伴った、サイバー空間とフィジカル空間が融合した人間生活の在り方をテーマに見据えた研究テーマの取り組みなどが期待されます。

地球科学分野

地球宇宙化学的な分析に基づいた地質学的・惑星科学的研究の申請が多く見受けられました。手法自体はそれぞれの研究室で行われているものを踏襲するものが多く、未知の問題

に切り込むというチャレンジングな意気込みを感じさせるものは少なかったのが残念です。従来の確立された研究手法（確実になにがしかの成果が期待出来るもの）を用いて、手堅く研究を進める保守的な傾向が全体に強く感じられました。新たな視点の導入、新たな解析手法・実験手法の開発、といった既存の枠組みを打ち破るような研究計画を期待します。

申請書は学部・修士・博士と年を重ねるにつれてレベルがあがっています。経験に裏付けされた自分の研究の客観的な位置づけが申請書の質を左右していると思われます。「研究がなされていない」ということを研究に向かう動機として挙げている例が多く見られましたが、論理的な組み立てを望みたいと思います。

その他の分野

新しく進展した他分野の成果を取り込んで、研究を進めようとする計画がいくつかありました。このような応用は、ゼロから新しいことを始めるのに比べて、かなりコストパフォーマンスが高いと思います。ただし、常に予期した成果が得られるわけではないことが、新しい研究にはつきものであることには変わりありません。当初の目論見とは異なる結果であっても、それを堂々と発表する勇気を持ってほしいと思います。その結果がどのようなものであっても、最初の試みに関する結果は、後続の研究の大きな参考になります。

それとは逆に、研究に必要な基本的ツールを正しく普及させるための研究もありました。こちらは非常に地味で、その研究自体でなにか新しい発見が期待できるわけではありませんが、その分野の研究を前に進めるために、土台を固める仕事は誰かがやらなければなりません。昨今、研究に求められる「競争」にはなじまない仕事ですが、これも立派な研究の一部だと思います。

今年の申請には、偶然ですが、顕微鏡下での細胞の観察手段の開発に関わる申請が3件ありました。いずれも独創的なアイデアで、成功すれば、生物学の研究に新たな視野が開けることを期待させます。また、人体の認知や動作と大脳との関係をテーマにする申請が3件ありました。いずれの研究もアプローチが限られ、独創的な研究を行うことが難しいという印象をもちました。農業に関わる実践的な研究の申請が5件ありました。地域的な貢献が期待できます。最近のAIブームを反映して、ロボットを利用する研究テーマが2件ありました。ロボットは発展段階ですが、近未来には、パソコンと同じように、生活に必要な不可欠なものになる時代が来るでしょう。

〔複合系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
北海道	2020-6022	飯塚 睦	女		北海道大学大学院環境科学院地球圏科学専攻生物地球化学コース	博士課程1年	過去の温暖期（最終間氷期）における海洋と南極氷床全体の変動の関連解明	890,000
	2020-6032	留目 諒			北海道大学大学院水産科学院海洋生物資源科学専攻	博士前期課程2年	シミュレーションによるアミメノコギリガザミ種苗生産水槽の流場改善に関する研究	630,000
	2020-6024	池上 森			北海道大学大学院理学院自然史科学専攻地球惑星システム科学講座	博士後期課程1年	イカ類の爆発的多様化と進化史解明：隠された化石記録を全自動で抽出する	700,000
秋田県	2020-6045	須藤 百香	女		秋田県立大学大学院システム科学技術研究科経営システム工学専攻	博士前期課程2年	LC/IRMSにおける日本酒中の個別成分の炭素安定同位体比分析法の開発と異同識別	650,000
福島県	2020-6038	霜山 竣			福島大学大学院共生システム理工学研究科共生システム理工学専攻	修士課程2年	地下空間貯留水の持続的冷熱源利用の実現に向けた熱物性推定手法の開発	700,000
群馬県	2020-6030	安カ川 真美	女		群馬大学大学院理工学府物質・生命理工学領域	博士後期課程3年	レシオ型酸素プローブを用いた3次元培養スフェロイドの酸素濃度勾配イメージング	700,000
埼玉県	2020-6010	中村 亮裕			埼玉大学大学院理工学研究科生命科学系専攻	博士後期課程2年	最小限の要素から構成される鉄硫黄クラスター生合成システムの構造生物学	600,000
千葉県	2020-6018	棗 寿喜			順天堂大学スポーツ健康医科学研究所	特任助教	運動によって分泌されるポリペプチドはサルコペニアを抑制するか？	600,000
	2020-6004	吉原 利典			順天堂大学スポーツ健康科学部	助教	速筋線維特異的な筋萎縮メカニズムを司るアンジオテンシン受容体制御機構の解明	600,000
	2020-6016	千葉 友樹			千葉県立中央博物館	研究員	堆積物中の貝殻を用いて外来肉食性巻貝による水産有用二枚貝の食害を解明する	830,000
東京都	2020-6029	田淵 絢香	女		電気通信大学大学院情報理工学研究科基盤理工学専攻	博士後期課程1年	骨格筋の適応を決定する細胞内カルシウムイオンの変動パターンの解明	600,000
	2020-6044	奈良 佳樹			電気通信大学大学院情報理工学研究科基盤理工学専攻	博士前期課程1年	細胞張力の三次元可視化のための生体適合性メカノハイドロゲル光ファイバーシートの開発	700,000
	2020-6034	林 唯奈	女		電気通信大学大学院情報理工学研究科基盤理工学専攻	博士前期課程2年	哺乳類初の発光酵素の探索	750,000
	2020-6007	LEE KANG		韓国	東京学芸大学教育学部自然科学系文化財科学分野	個人研究員	酸性紙図書の長期保存技術の確立：紙の自然劣化を正確に予測できる新規加速劣化試験法の提案	700,000
	2020-6036	中山 絵美子	女		東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻	修士課程2年	超音波画像装置を用いた寝たきり高齢者の尿路感染症の早期発見方法の開発	700,000
	2020-6026	清水 大地			東京大学大学院教育学研究科総合教育科学科教育心理学コース	特任助教	ブレイクダンスにおける文化発展を促す可視化システムの開発：表現の独創性と情動状態に着目したアプローチ	700,000
	2020-6015	高橋 謙也			東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻	博士課程3年	不活動および筋損傷に対する乳酸摂取効果の検討-骨格筋ミトコンドリアに着目して-	700,000
	2020-6027	梁瀬 真優花	女		東京大学大学院農学生命科学研究科農学国際専攻国際情報農学研究室	修士課程2年	ケニアにおける葉菜類の物流チャネルと温湿度管理の改善による農家収入向上の可能性	750,000
	2020-6040	長澤 真			東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻	博士前期課程2年	分子地球化学的アプローチによる希土類元素濃集現象の包括的理解	710,000
	2020-6001	石村 大輔			東京都立大学都市環境学部地理環境学科	助教	下北半島北部、津軽海峡に面した低地における最近6000年間の津波堆積物の認定とその波源推定	700,000
2020-6011	立石 泰寛			慶應義塾大学大学院薬学研究科薬科学専攻	博士後期課程3年	医薬品の代謝活性化に関する化学的研究と創薬への応用-抗炎症薬ジクロフェナクにおけるケーススタディ-	750,000	

〔複合系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
神奈川県	2020-6037	平川 尚毅			横浜国立大学大学院理工学府化学・生命系理工学専攻	博士後期課程3年	初期太陽系における鉱物と有機物の相互作用の解明～原始太陽系円盤から隕石母天体へ～	650,000
	2020-6005	鈴木 里奈	女		慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科政策・メディア専攻	修士課程2年	脳-身体システムと環境のインタラクションによる柔軟な運動制御を「皮質-筋コヒーレンス」から解明する	750,000
	2020-6013	工藤 光平			東京農業大学農学部バイオセラピー学科	助教	形態学的、力学的、行動学的実験手法を用いたイエネコの手根球の機能解明：形質-育種観理論の展開に向けて	650,000
山梨県	2020-6019	塚本 敬太			山梨大学大学院医工農学総合教育部生命環境学専攻	博士前期課程2年	自己免疫疾患治療薬の開発に向けたTNF α /TNFR間相互作用を阻害する新規化合物のスクリーニング探索	750,000
長野県	2020-6031	倉田 祐輔			信州大学大学院総合理工学研究科農学専攻	修士課程2年	中山間地域における新規農業企業の持続的参入要因と地域社会への影響-長野県伊那市長谷地区を事例として-	600,000
	2020-6021	関 有沙	女		信州大学理学部	博士研究員	第四紀日本海の溶存酸素濃度の変動復元～海洋の酸素濃度変動要因の解明に向けて～	540,000
石川県	2020-6003	張 露露	女	中国	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科創薬科学専攻	博士後期課程3年	海洋由来ジメチルスルフィド共存下における越境輸送多環芳香族炭化水素と黄砂との相互作用に関する研究	750,000
福井県	2020-6020	山田 圭太郎			立命館大学総合科学技術研究機構	専門研究員	現生花粉の安定同位体比の気象に対する応答の定量化-化石花粉の安定同位体比による古気候復元に向けて-	700,000
愛知県	2020-6046	土元 翔平			生理学研究所システム脳科学研究領域	特任研究員	ロボット移乗介護機器使用にともなう身体的・心理的負荷軽減シーンを同定するための動線解析システムの開発	650,000
京都府	2020-6035	川平 直史			京都大学大学院医学研究科・医学専攻	博士課程4年	立体的な組織内の細胞動態を解析するための理論構築と、頭部の形態形成を引き起こす細胞動態の同定	750,000
	2020-6023	雪岡 聖			京都大学大学院地球環境学学堂	研究員	マイクロプラスチックの劣化指標の開発および海洋環境試料への適用	640,000
	2020-6014	奥村 翔太			京都大学大学院理学研究科	博士後期課程1年	石基輝石結晶のナノスケール分析から探る、火道浅部環境と噴火様式の関連性	700,000
	2020-6008	黒田 真帆	女		同志社大学大学院生命医科学研究科医工学・医情報学専攻医工学コース	博士前期課程1年	大小粒子集団が創成する動的空間秩序：細胞の自律的構造形成のモデリング	750,000
	2020-6006	北川 智規			同志社大学大学院生命医科学研究科医工学専攻	博士前期課程2年	DNA高次構造制御に基づく遺伝子活性の促進と抑制	650,000
大阪府	2020-6043	ZHOU YI	女	中国	大阪大学薬学研究科創成薬学情報・計量薬学分野	博士後期課程4年	総合統計プラットフォームMEPHASの更新及び改良	750,000
	2020-6048	松田 紀美	女		大阪市立大学都市研究プラザ	特別研究員	子どもをもつ母子世帯出身者の現在の食行動・食意識および子どもへの働きかけ	650,000
兵庫県	2020-6047	春井 彩花	女		神戸女子大学大学院家政学研究科食物栄養学専攻	博士前期課程2年	昆布摂取による高血圧予防機序における腸内細菌叢の役割	660,000
和歌山県	2020-6039	亀井 碧	女		和歌山大学大学院システム工学研究科システム工学専攻	博士後期課程1年	地域性種苗を活用した沿岸域の草地再生の技術開発	580,000
岡山県	2020-6009	青木 孝文			川崎医療福祉大学大学院医療技術学研究科健康科学専攻	博士後期課程3年	腸内細菌叢と骨格筋のクロストーク～食物繊維摂取と運動は短鎖脂肪酸産生変化を介し、骨格筋に影響するか～	600,000
徳島県	2020-6012	高田 春風	女		徳島大学大学院薬科学教育部薬学専攻	博士課程1年	遺伝子治療用核酸搭載リポソームの投与が全身性エリテマトーデスの発症・増悪に与える影響に関する研究	700,000

〔複合系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
愛媛県	2020-6033	土田 真愛	女		愛媛大学大学院理工学研究科先端科学特別コース	博士後期課程3年	プレート沈み込み帯に関する数値流体力学的研究：浅部地殻活動から深部プレート挙動までの整合的理解へ	550,000
長崎県	2020-6041	小川 昂輝			長崎大学大学院医歯薬学総合研究科	博士課程4年	超音波応答性DDSによる遺伝子導入システムを利用したパーキンソン病に対する再生治療の開発	750,000
	2020-6025	岸本 優輝			長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科水産学専攻	博士前期課程1年	水温ロガーを用いたマツカワ雌親魚の産卵期に出現する特異的な水温変化の周期性および発生要因の解明	640,000

2020 年度実践系総評

実践系選考委員会委員長

2020 年度の実践系研究計画の選考結果を踏まえ、次年度の申請の際に参考にしていただきたい点について述べておきます。

昨年同様、本年度の実践研究部門は、実践研究 A（学校、NPOなどに所属している方が社会的諸問題の解決に向けて行う実践研究）と実践研究 B（博物館学芸員・図書館司書等が単年度で行う調査・研究）に分けて募集しました。2 年前から電子申請にした結果、申請件数はやや減少しております。実践研究 A では、社会の諸課題の解決にむけて、それぞれのアプローチで取り組まれている NPO 法人の興味深い研究の応募があり、研究計画も優れたものが多かったのが印象でした。一方、実践研究 B（学芸員・図書館司書の分野）では、申請件数は、昨年度よりも 5 件増加したものの 18 件とまだ少ないのが現状です。昨年度は、6 割超が自然科学系の研究内容でしたが、今年度は逆に 6 割超が人文科学系の申請でした。また昨年度は 0 件であった図書館からの申請は 2 件となりましたが、まだまだ少ないのは残念です。今後、博物館や図書館からの一層積極的な応募を期待したいと思います。

本年度の特徴

2020 年度の申請書を振り返りますと、実践研究 A では、新しい傾向として「IoT」や「ロボット」を活用した実践的な取り組みも注目に値します。実践研究 B では、特徴的なキーワードとして見られたのが、「アーカイブズ」と「データベース化」で、合わせて 5 件を占めました。そのほかには、「観光化」や「バリアフリー」、動物園に関しては「環境エンリッチメント」や「種の保存」がキーワードとなる申請もあり、国の施策を反映したキーワードも見受けられました。

研究の中身を見ますと、①申請者の所属館と他の博物館・研究員・研究団体・学校教育の現場・地域社会などと密接に連携を図りながら調査・研究を行う申請内容が見受けられたこと。②身体障がい者や異文化コミュニケーションなどバリアフリー・ユニバーサルデザインを意識した申請内容が見受けられたこと。③申請した調査・研究を一過性のものとするのではなく、今後の館運営に反映させることを意識した申請内容が見受けられたこと、などが特徴的でした。

研究助成の趣旨をよく理解した上で申請している計画書が見られた一方で、中には、課題設定、研究内容や方法等において十分に吟味されていないと思われる計画もありました。実践研究として、どのように研究を進め、いかなる成果を出そうとしているのかが分かるように研究計画書を作成していただきたいと思います。

長期的視点に立って

「多様化・複雑化する社会が生み出す課題解決に対して研究助成する」という本研究部門の趣旨を実現させるためには、多種多様な人材・団体・地域社会との連携が不可欠です。その意味で、上記①の申請内容が多く見受けられたのは好ましいことだといえます。また、課題解決に向けては助成年度内だけではなく、長期的視野に立って地道に取り組む必要があります。その意味では上記③のように、助成終了後の研究の方向性も展望した申請内容が見受けられた点も望ましい傾向でしょう。

今後、日本社会はますます多種多様な人々との共生が意識されていくことでしょう。その意味からしても、実践系の研究は社会的に重要な意義を帯びてくることは間違いありません。長期的視点を実践研究に持つことの意味を忘れないようにしていただきたいと思えます。

実践研究か学術研究か

本年も、学校教育現場における授業研究の延長線上の枠組に閉じたものや、研究としての価値は認められるものの、まずはあくまで学術研究として進めることが妥当だと思われる申請が見られました。もちろん、それらを否定するわけではありませんし、実際、なかなか研究費が得にくい現実があると思いますが、本実践系の助成は「第一線で活躍する専門的立場にある者を対象にした、数ある民間研究助成の中でも他に類を見ない制度」であり、「ますます多様化・複雑化する社会が生み出す新しい課題に向かって果敢にチャレンジし新しく途を開くような研究」という本助成の主旨を実現していくためには、より広く地域的・社会的・現代的な文脈に即した申請が増えることを期待したいところです。

実践の場をもっている申請者でも、実践を通じての課題解決を目指すというよりも、課題そのものを研究する研究内容があり、学術研究部門に申請すべき研究も見受けられました。研究助成を申請される際には、本助成制度の趣旨を今一度確認され、十分な検討をしたうえで申請をしていただきたいと思えます。

研究の社会的波及効果や期待される実践的成果に関する記述が具体的でないため、その点に関する評価が難しいケースが毎年見られます。この点についても、記載にあたっては十分留意して応募していただきたいと思えます。

国際的な研究テーマ

昨年(2019年)9月には、日本で初めて国際博物館会議(ICOM)の世界大会が京都で開催された影響もあると思いますが、その国際会議で話題となった「多文化共生」や「持続可能な社会」などについても、今年度の研究課題に反映されたものが散見されました。時代の流れに呼応した研究と思いますが、研究協力者を招聘するまでは理解できますが、何のように研究協力者として研究するのか記述がないもの、粗い内容も散見されました。

国際的な研究テーマの申請書のなかには、海外事例の収集だけを目的とした事案が何点

か見受けられました。日本で収集し得る情報と、海外でなければ収集できない情報との区別を明確化することも計画立案上、必要なことと考えられます。

研究の視座・視点も国際化しているのは時代の潮流で喜ばしいことでしょう。ユネスコが提唱するSDGsの考えを取り入れた研究計画もありました。しかし、申請内容を詳細に見ますと、ユネスコのSDGsと直接的に結びついておらず、看板だけのように思われる申請もありました。わざわざ研究課題名に入れるほど研究内容と直接的に関連していなかったのが残念です。

予算の内訳も審査対象のひとつ

一昨年度以来、科学研究機材を活用した実践研究の申請が目立っています。今年度の申請で目に付いたのは、国内外調査のための旅費交通費の獲得を主体とした申請でしょうか。財政難の折、博物館等において、公費では物品購入費に加え、出張旅費の予算を獲得するのも困難になっていることが背景にあると思います。

研究活動に最新の科学研究機材を導入したり、海外の先進事例に学ぶことは、新たな研究に取り組む上で重要であることには間違いありません。しかし、機器購入だけが目的化している申請や海外出張費・学会出張等（なかには参加登録費）の経費捻出が目的となっている申請書が何件もあり、この点は、研究者としての倫理や姿勢の問題として再考すべきと考えます。丁寧に検討されている申請がある反面、①書籍購入一式、②外国旅費、③学会参加(申請者本人以外)など、何故その予算が必要か見当もつかない申請もありました。

改めていうまでもなく、研究成果の社会的効果に、十分期待できる研究計画という観点を考慮することが必要です。理論的背景に基づく、あるいは萌芽性・挑戦性のある実践研究が、一般化できるための効果の検証や知見につながることも視野に入れると、さらに意義ある研究になるかと思えます。皆様方の今後の研究活動に期待しております。

〔実践系〕

都道府県	研究番号	助成者名	性別	国籍	所属機関	職名	研究課題	助成金額
北海道	2020-8010	鈴木 あすみ	女		北海道博物館研究部博物館研究グループ	学芸員	博物館と地域の連携による鳥類標本データベース構築-未利用個体の活用に向けたモデルづくり-	350,000
群馬県	2020-8014	市川 寛也			群馬大学教育学部	准教授	生活空間と共存する文化財の創造的活用モデルの構築-アートベース・リサーチの手法を踏まえて	380,000
東京都	2020-8005	鈴木 健一			板橋区立高島第三小学校	主幹教諭	体育科における言語活動の充実と動きの変容との関係	350,000
静岡県	2020-8004	鈴木 雅義			静岡大学教育学部附属特別支援学校	教諭	発達障害でミソフォニア症状を有する特別支援学校高等部生徒のキャリア発達を促す包括的支援方法の開発	380,000
愛知県	2020-8013	福武 亨			愛知医科大学総合学術情報センター	司書	小酒井不木作品における引用分析と引用情報データベース構築	290,000
	2020-8006	加藤 圭太			愛知県立旭陵高等学校	教諭	通信制高校におけるICTを活用した協働学習-総合的な探究の時間でのプロジェクト学習の実践-	260,000
三重県	2020-8008	鄭 尚海		中国	社会福祉法人青山里会	ソーシャルワーカー	特別養護老人ホームにおける認知症高齢者のストレングス（強み）の活用に関する研究	310,000
京都府	2020-8012	横山 操	女		京都大学総合博物館	研究員	奈良県五條市賀名生・堀家伝来・日の丸紋の旗-学術調査を踏まえた保存と活用-	360,000
	2020-8015	倉知 桂子	女		同志社大学人文科学研究所	嘱託研究員	近代蚕業史アーカイブ・モデルの構築 -蚕業関連資料の保存と活用-	360,000
大阪府	2020-8011	石井 陽子	女		大阪市立自然史博物館学芸課	主任学芸員	視覚障がい者の博物館での学びに必要な情報とはなにか 自然史博物館を身体で楽しむ方法の提案	370,000
島根県	2020-8002	川見 昌春			松江工業高等専門学校実践教育支援センター	技術長	I o Tと近距離無線通信を活用した認知症徘徊者探索支援システムの構築-通信方式改善による探索範囲広域化	300,000
高知県	2020-8001	武内 文治			奥四万十山の暮らし調査団	代表	住民による小地名の記録と地域資源地図づくり（民衆知の記憶を公共財としての記録へ）	380,000
福岡県	2020-8003	吉富 容			一般社団法人BC-ROBOP海岸工学会	事務局理事	人間とロボットが協力して「海ごみ清掃作業」を行い「きれいな海を守る」活動地域づくりを行う。	380,000
	2020-8009	伴 和幸			大牟田市動物園	飼育員	動物福祉と獣害問題を考える教育イベントの開発：駆除された野生動物を動物園で屠体給餌する実践マニュアル	360,000
大分県	2020-8007	葉山 靖明			NPO法人学びあい	副理事長	バン格拉デシュにおける協働講義による障がい者の命と役割の再獲得プロジェクト	400,000

2019年度笹川科学研究奨励賞 受賞者一覧

研究領域	研究番号	受賞者名	性別	国籍	所属機関：助成時点	職名：助成時点	研究課題
人文・社会	2019-1019	大野 絢也			一橋大学大学院社会学研究科総合社会科学専攻	博士後期課程5年	日中戦争期の中国における交通建設と地域社会の変容—粵漢鉄道を中心として—
	2019-1027	木下 実紀	女		大阪大学大学院言語文化研究科言語社会専攻	博士後期課程1年	イラン近代における社会批判精神の表出—知識人による西欧文学の翻訳行為から—
数物・工学	2019-2011	中島 義基			筑波大学大学院数理物質科学研究科電子・物理工学専攻	博士前期課程2年	フレキシブル全固体薄膜二次電池の創製を目指した革新負極技術の開発
	2019-2022	奥井 恒			新潟大学大学院自然科学研究科数理物質科学専攻素粒子論研究室	博士後期課程2年	原始重力波で探る素粒子右巻きニュートリノ
化学	2019-3004	中島 誠也			千葉大学大学院薬学研究科	助教	可視光をエネルギー源とする超原子価ヨウ素化合物の創成
	2019-3031	Azzah Dyah Pr amata	女	インドネシア	熊本大学大学院自然科学研究	博士後期課程3年	ペロブスカイト型量子ドットとレドックスクラスターを用いた光エネルギー貯蔵
生物	2019-4008	見原 翔子	女		東京工業大学科学技術創成研究院化学生命科学研究科	研究員	窒素固定型・ヘテロシスト形成型シアノバクテリアに固有のレドックス制御システムの解明
	2019-4037	向井 正哉			総合研究大学院大学生命科学研究科基礎生物学専攻	博士課程2年	細胞周期への定量生物学的アプローチ：CyclinとCDKの定量から細胞周期システムを理解する
	2019-5005	常盤 俊大			日本獣医生命科学大学獣医学部獣医学科	講師	寄生性カリオスポラ属原虫の系統分類からみた鳥類宿主への適応過程
	2019-5012	西村 明洋			京都大学院理学研究科植物系統分類学専攻	修士課程1年	海洋島の根寄生植物シマウツボにおける生態と宿主特異性進化の実態
複合	2019-6046	竹村 謙信			静岡大学創造科学技術大学院バイオサイエンス専攻	博士課程2年	局所プラズモン共鳴効果に基づく磁気分離型ナノバイオセンサーの作製と複数ウイルス検出への応用
	2019-6047	川又 基人			総合研究大学院大学複合科学研究科極域科学専攻	博士課程5年	東南極の宗谷海岸地域における最終氷期最盛期以降の氷床後退過程の復元
海に関係する研究	2019-1029	齊藤 豪大			久留米大学経済学部経済学科	専任講師	18世紀スウェーデンにおける北極圏での捕鯨政策構想と展開：政府・商人・科学アカデミーの関係に注目して
	2019-2034	塩満 大祐			九州大学大学院工学府海洋システム工学専攻	博士後期課程2年	外圧を受けるリング補強円筒殻の高精度な座屈強度推定式の開発
実践	2019-8006	東 義詔			公益財団法人花と緑の銀行中央植物園部	企画情報課主任	海産希少種子植物ウミクサ類の野外調査手法の開発
	2019-8007	國眼 厚志			兵庫県朝来市立竹田小学校	教諭	障害をもつ人たちのための科学体験活動

2020年度笹川科学研究助成 応募・採択状況

学術領域	人文・社会系	数物・工学系	化学系	生物系	複合系	実践系	合計
採択件数	32件	40件	38件	154件	44件	15件	323件
応募件数	112件	124件	135件	511件	169件	50件	1,101件

